別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ﾌｸﾊﾗｶﾞｸｴﾝ 学校法人　福原学園	
フリガナ 大学の名称	ｷｭｳｼｭｳｼﾞｮｼﾀﾞｲｶﾞｸ 九州女子大学　(Kyushu Women's University)	
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号	
大学の目的	本学は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところにより広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、応用的能力展開と人格の感性に努め、我が国の文化の高揚発達に貢献する高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とする。	
新設学部等の目的	学是「自律処行」の精神に基づき、生活デザイン学科は、人間生活とその環境に関する専門性と広い視野を有し、社会に貢献できる、豊かな人間性と高い倫理性を備えた人材を育成することを目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
家政学部 [Faculty of Home Economics] 生活デザイン学科 [Department of Lifestyle Design]	4	60	—	240	学士(家政学) 【Bachelor of Home Economics】	令和5年4月 1年次	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号
計		60	—	240			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	
	家政学部 人間生活学科（廃止）（△ 40） ※令和5年4月学生募集停止 人間科学部 児童・幼児教育学科　（ 100）（令和4年3月認可申請） 心理・文化学科　（ 90）（令和4年4月届出予定） 人間発達学科（廃止） 人間発達学専攻　（△130） 人間基礎学専攻　（△ 60） （3年次編入学定員）　（△ 40） ※令和5年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
人間科学部 生活デザイン学科	100　科目	104　科目	14　科目	218　科目	124　単位

教員組織の概要

	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
新設分	家政学部　生活デザイン学科	5 人 (5)	0 人 (0)	2 人 (2)	0 人 (0)	7 人 (7)	1 人 (1)	77 人 (41)	
新設分	人間科学部　児童・幼児教育学科	9 (9)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	73 (44)	令和4年3月認可申請
新設分	心理・文化学科	6 (6)	3 (3)	2 (1)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	69 (45)	令和4年4月届出予定
新設分	計	20 (20)	8 (8)	7 (6)	0 (0)	35 (34)	1 (1)	— (—)	
既設分	家政学部　栄養学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	5 (5)	65 (47)	
既設分	共通教育センター	1 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	— (—)	
既設分	計	8 (8)	4 (4)	4 (3)	0 (0)	16 (15)	5 (5)	— (—)	
合計		28 (28)	12 (12)	11 (9)	0 (0)	51 (49)	6 (6)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	25 人 (25)	3 人 (3)	28 人 (28)	
	技術職員	0 (0)	1 (1)	1 (1)	
	図書館専門職員	1 (1)	0 (0)	1 (1)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	26 (26)	4 (4)	30 (30)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	— ㎡	35,938.40 ㎡	— ㎡	35,938.40 ㎡	九州女子短期大学と共用
	運動場用地	— ㎡	13,551.27 ㎡	— ㎡	13,551.27 ㎡	
	小計	— ㎡	49,489.67 ㎡	— ㎡	49,489.67 ㎡	
	その他	— ㎡	62,035.77 ㎡	— ㎡	62,035.77 ㎡	
	合計	— ㎡	111,525.44 ㎡	— ㎡	111,525.44 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	— ㎡ (— ㎡)	34,308.93 ㎡ (34,308.93 ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	34,308.93 ㎡ (34,308.93 ㎡)	九州女子短期大学と共用

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	41 室	46 室	18 室	5 室 (補助職員 1 人)	— 室 (補助職員 — 人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	人間科学部 生活デザイン学科	7 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間科学部 生活デザイン学科	216,560〔28,746〕 (200,328〔28,706〕)	154〔—〕 (154〔—〕)	4〔 4 〕 (4 〔 4 〕)	4,596 (4,556)	— (—)	— (—)	大学全体 学部学科単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	216,560〔28,746〕 (200,328〔28,706〕)	154〔—〕 (154〔—〕)	4〔 4 〕 (4 〔 4 〕)	4,596 (4,556)	— (—)	— (—)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	2,893.77 ㎡	380	205,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	4,435.02 ㎡	テニスコート5面	ソフトボール場	大学全体

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	図書費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費（運用コストを含む。）を含む。
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
	図書購入費	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	—	—	
	設備購入費	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	—	—	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,184千円	904千円	904千円	904千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	家政学部						1.01		福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号	
	人間生活学科	4	40	—	160	学士(家政学)	1.05	平成13年度		
	栄養学科	4	90	—	360	学士(家政学)	1.04	平成13年度		
	人間科学部						1.08			
	人間発達学科 人間発達学専攻	4	130	—	520	学士(文学)	0.92	平成22年度		
	人間発達学科 人間基礎学専攻	4	60	3年次 40	320	学士(文学)	1.42	平成22年度		

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	子ども健康学科	2	150	—	300	短期大学士（教育学）	0.90	平成23年度	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号	
	大学の名称	九州共立大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経済学部 経済・経営学科	4	350	—	1,300	学士（経済学）	1.14 1.26	平成21年度	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番8号	令和元年度入学定員減（△100人） 令和3年度入学定員増（50人） 令和3年度入学定員減（△20人）
	地域創造学科	4	80	—	360	学士（経済学）	0.74	平成31年度		
	スポーツ学部 スポーツ学科	4	250	—	1,000	学士（スポーツ学）	1.14 1.14	平成19年度		
	大学の名称	九州共立大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経済・経営学研究科 経済・経営学専攻	2	5	—	10	修士（経済学）	2.60 2.60	令和4年度	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番8号	令和4年4月開設
	スポーツ研究科 スポーツ学専攻	2	5	—	10	修士（スポーツ学）	1.10 1.10	平成30年度		
附属施設の概要	該当なし									

学校法人福原学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度　→　令和５年度

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
九州女子大学				九州女子大学				
家政学部				家政学部				
人間生活学科	40	－	160	生活デザイン学科	60	－	240	学科の設置（届出）
栄養学科	90	－	360	栄養学科	90	－	360	
人間科学部				人間科学部				
人間発達学科				児童・幼児教育学科	100	－	400	学科の設置（認可申請）
人間発達学専攻	130	－	520	心理・文化学科	90	－	360	学科の設置（届出）
人間基礎学専攻	60	3年次 40	320					
計	320	40	1,360	計	340	－	1,360	
九州女子短期大学				九州女子短期大学				
子ども健康学科	150	－	300	子ども健康学科	150	－	300	
計	150	－	300	計	150	－	300	
九州共立大学				九州共立大学				
経済学部				経済学部				
経済・経営学科	350	－	1,400	経済・経営学科	350	－	1,400	
地域創造学科	80	－	320	地域創造学科	80	－	320	
スポーツ学部				スポーツ学部				
スポーツ学科	250	－	1,000	スポーツ学科	250	－	1,000	
計	680	－	2,720	計	680	－	2,720	
九州共立大学大学院				九州共立大学大学院				
経済・経営学研究科				経済・経営学研究科				
経済・経営学専攻（Ｍ）	5	－	10	経済・経営学専攻（Ｍ）	5	－	10	
スポーツ学研究科				スポーツ学研究科				
スポーツ学専攻（Ｍ）	5	－	10	スポーツ学専攻（Ｍ）	5	－	10	
計	10	－	20	計	10	－	20	

※ 九州女子大学人間科学部人間発達学科は、
専攻ごとに教職課程が異なる。

別記様式第２号・別添１

（用紙　日本産業規格A4縦型）

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
家政学部 人間生活学科 （廃止）	学士 （家政学）	家政関係	家政学部生活デザイン学科	7	5	家政学部 生活デザイン学科	学士 （家政学）	家政関係	家政学部人間生活学科	7	5
			退職	1	0						
			計	8	5				計	7	5
家政学部 栄養学科	学士 （家政学）	家政関係	家政学部栄養学科	14	7						
			計	14	7						

別記様式第２号・別添２

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　礎　と　な　る　学　部　等　の　改　編　状　況

開設又は改編時期	改　編　内　容　等	学　位　又　は　学　科　の　分　野	手続きの区分
昭和37年4月	家政学部家政学科　設置	家政学	設置認可（大学）
平成13年4月	家政学部人間生活学科　設置	家政学	設置届出（学科）
平成13年4月	家政学部栄養学科　設置	家政学	
平成13年4月	家政学部家政学科の学生募集停止	－	学生募集停止（学科）
令和5年4月	家政学部生活デザイン学科　設置	家政学	認可又は届出

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（家政学部生活デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合共通科目	教養教育科目	文化・芸術領域	ことばと日本文化	1・2前・後		2		○								兼2	共同
			ことばと異文化	1・2前・後		2		○								兼3	共同
			情報文化論	1・2前・後		2		○								兼1	
			スポーツの文化	1・2前・後		2		○								兼1	
		歴史・社会領域	歴史と国際情勢	1・2前・後		2		○								兼1	
			現代国家と法（日本国憲法）	1・2前・後		2		○								兼1	
			暮らしと経済	1・2前・後		2		○								兼1	
			人権・同和教育	1・2前・後		2		○								兼1	
		人間・環境領域	人間と哲学	1・2前・後		2		○								兼1	
			生命と地球	1・2前・後		2		○								兼1	
			心の科学	1・2前・後		2		○								兼1	
			共生社会を生きる	1・2前・後		2		○								兼1	
	言語・異文化理解科目		日本語表現法Ⅰ	1前・後	1				○							兼1	
			日本語表現法Ⅱ	2前・後	1				○							兼1	
			伝わる文章力	2前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅰ	1前	1				○							兼1	
			英語Ⅱ	1後	1				○							兼1	
			英語コミュニケーションⅠ	2前	1				○							兼1	
			英語コミュニケーションⅡ	2後	1				○							兼1	
			ＴＯＥＩＣ入門	1前・後		1			○							兼2	
			フランス語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
			フランス語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
			中国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
			中国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
			韓国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼2	
			韓国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼2	
			イングリッシュワークショップ	1・2前・後		1			○							兼3	共同
			海外研修	1・2・3・4前・後		2				○						兼1	
	情報教育科目		情報処理演習Ⅰ	1前	1				○							兼1	
			情報処理演習Ⅱ	1後	1				○							兼1	
			情報処理演習Ⅲ	2前		1			○							兼1	
			情報処理演習Ⅳ	2後		1			○							兼1	
			情報科学概論	1前		2		○								兼1	
			データサイエンス	1後		2		○								兼1	
			アルゴリズムとプログラミング	2前		2		○								兼1	
			ＩＣＴ活用法	2後		2		○								兼1	
			情報処理技術	3前		2		○								兼1	
	健康教育科目		スポーツ	1前・後		1				○						兼3	
			健康の科学	1前・後		2		○					1				
	キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	キャリア基礎演習Ⅰ	1前・後	1				○		2		1				
			キャリア基礎演習Ⅱ	2前・後	1				○		2		1				
			キャリア基礎演習Ⅲ	3前・後	1				○		2		1				
			キャリアデザインⅠ	1前	1				○				1				
			キャリアデザインⅡ	3前		1			○							兼1	
			キャリアデザインⅢ	3後		1			○							兼1	
			インターンシップⅠ	1・2・3・4前・後		2				○			1			兼1	共同
			インターンシップⅡ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1	
		キャリア発展領域	スキルアップ講座Ｂ	2前		1			○							兼1	
			スキルアップ講座Ｃ	2後		1			○							兼1	
			スキルアップ講座Ｄ	3前		1			○		1						

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合共通科目	キャリア教育科目	キャリア発展領域	スキルアップ講座Ｅ	3後		1			○		2						共同
			スキルアップ講座Ｒ	3・4前		1			○							兼1	
			スキルアップ講座Ｓ	3・4後		1			○							兼1	
小計（53科目）				―	12	62	0	―			4	0	2	0	0	兼28	
専門教育科目	学部共通科目		家政学概論	1前	2			○			3					兼1	共同
			人間関係論	2後		2		○								兼1	
			統計学	2後		2		○					1				
			カウンセリング論	2後		2		○								兼1	
			フードスペシャリスト論	3後		2		○			1						
			食品の官能評価・鑑別論	3後		2		○								兼2	共同
			教職概論	1前		2		○								兼1	
			教育原論	1後		2		○								兼1	
			教育心理学	1後		2		○								兼1	
	学科共通科目		生活デザイン概論	1前	2			○			1		1				共同
			生活デザイン演習	1通	3				○		1		1				共同
			家族関係学（生活福祉を含む。）	1前	2			○			1						
			消費生活論	1後	2			○			1						
			被服学	1前	2			○								兼1	
			食物学	1後	2			○			1						
			住居学（製図を含む。）	1前	2			○			1						
	コース科目	家庭科教育コース	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	3前		2		○								兼1	
			生活経営学（生活経済学を含む。）	2後		2		○			1						
			家庭電気・機械	2前		2		○								兼1	
			家庭科情報処理演習	2前		1			○							兼1	
			被服構成学	1後		2		○								兼1	
			被服構成学実習Ⅰ	2前		1				○						兼1	
			アパレルＣＡＤ演習	2後		1			○							兼1	
			被服構成学実習Ⅱ	2後		1				○						兼1	
			被服構成学実習Ⅲ	4前		1				○						兼1	
			食品学	1前		2		○					1				
			栄養学	3後		2		○			1						
			調理学	1後		2		○								兼1	
			調理学実習Ⅰ	2後		1				○	1						
			調理学実習Ⅱ	3前		1				○	1						
			調理学実習Ⅲ	3後		1				○	1						
		インテリアデザインコース	色彩学	1前		2		○								兼1	
			地域住宅地計画	3後		2		○								兼1	
			住居管理学	3前		2		○			1						
			インテリア計画	1後		2		○			1						
			建築・インテリア設計入門Ⅰ	1後		1			○		1						
			建築・インテリア設計入門Ⅱ	2前		1			○		1						
			建築計画Ⅰ	2前		2		○			1						
			建築計画Ⅱ	3前		2		○			1						
			建築史	3後		2		○			1						
			建築環境工学	2後		2		○			1						
			建築設備学	3後		2		○								兼1	
			建築一般構造学	2後		2		○								兼1	
			建築構造力学	3前		2		○								兼1	
			建築材料学	3前		2		○			1						
			建築施工学	3後		2		○								兼1	
			建築法規	3前		2		○								兼1	
			建築・インテリア設計演習Ⅰ	2前		2			○		1						
			建築・インテリア設計演習Ⅱ	2後		2			○		1						
			建築・インテリア設計演習Ⅲ	3前		2			○		1						
			建築・インテリア設計演習Ⅳ	3後		2			○							兼1	
			建築・インテリア設計演習Ⅴ	4前		2			○		1						

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	コース科目		インテリアデザイン演習Ⅰ	2後		2			○		1						
			インテリアデザイン演習Ⅱ	3前		2			○		1						
		ライフデザインコース	地域生活学演習Ⅰ	2通		2			○		1						
			地域生活学演習Ⅱ	3通		2			○				1				
			被服科学	1後		2		○								兼1	
			被服科学演習	1後		1			○							兼1	
			服飾デザイン論（アパレル企画を含む。）	2後		2		○								兼1	
			工芸染色実習	4前		1				○						兼1	
			フードコーディネート論	2前		2		○			1						
			食品流通・消費論	2前		2		○								兼1	
			食品・調理学実験	2前		1				○	2						共同
			食品衛生学	3前		2		○			1						
			社会調査法演習	3前		1			○				1				
			マーケティング論	2前		2		○					1				
			販売管理論	2後		2		○					1				
			流通管理論	3前		2		○					1				
			パーソナルファイナンス	3前		2		○			1						
			リテールマーケティング	3後		2		○					1				
			ファイナンシャルプラン	3後		2		○					1				
			調理技術基礎演習	2前		2			○		1						
			調理技術発展演習	2後		2			○		1						
			プロに学ぶ食育実践演習	3前・後		2			○		1						
	ゼミナール科目		ゼミナールⅠ	2前	1				○		2		1				
			ゼミナールⅡ	2後	1				○		2		1				
			ゼミナールⅢ	3前	1				○		2		1				
			ゼミナールⅣ	3後	1				○		3		1				
			キャリア発展ゼミナール	4通	2				○		5		2				
	小計（79科目）			―	23	118	0		―		5	0	2	0	0	兼22	
教職に関する専門教育科目			教育行政学	3前			2	○								兼1	
			特別支援教育論	3前			2	○								兼1	
			教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	2後			2	○								兼1	
			教育課程論（中等）	2前			2	○								兼1	
			家庭科教育法Ⅰ	1後			2	○			1						
			家庭科教育法Ⅱ	2前			2	○			2						共同
			家庭科教育法Ⅲ	2後			2	○			1						
			家庭科教育法Ⅳ	3前			2	○			1						
			道徳教育指導法（中等）	3前			2	○								兼1	
			特別活動・総合的な学習の時間指導法	2後			2	○								兼1	
			生徒・進路指導（中等）	2後			2	○								兼1	
			生徒・教育相談論（中等）	3前			2	○								兼1	
			中等教育実習事前事後指導	3通			1	○			1					兼1	共同
			中等教育実習Ⅰ	3通			2			○	1					兼1	共同
			中等教育実習Ⅱ	3通			2			○	1					兼1	共同
			教職実践演習（中等）	4後			2		○		1					兼1	共同
			小計（16科目）	―	0	0	31		―		2	0	0	0	0	兼9	
自由選択科目	図書館司書課程科目		図書館概論	1前		2		○								兼1	
			生涯学習概論	1後		2		○								兼1	
			情報資源組織論	2前		2		○								兼1	
			情報資源組織演習Ⅰ	2後		1			○							兼1	
			情報資源組織演習Ⅱ	3前		1			○							兼1	
			情報サービス論	2後		2		○								兼1	
			情報サービス演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
			情報サービス演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
			児童サービス論	3前		2		○								兼1	
			図書館情報技術論	2前		2		○								兼1	
			図書館情報資源概論	1後		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由選択科目	図書館司書課程科目	図書館サービス概論	2前		2		○								兼1	
		図書館制度・経営論	3後		2		○								兼1	
		図書館サービス特論・図書館情報資源特論	4後		2		○								兼1	
		図書及び図書館史・図書館基礎特論	4後		2		○								兼1	
	学校図書館司書教諭課程科目	学校経営と学校図書館	3前		2		○								兼1	
		学校図書館メディアの構成	3後		2		○								兼1	
		情報メディアの活用	4前		2		○								兼1	
		学習指導と学校図書館	4後		2		○								兼1	
		読書と豊かな人間性	4後		2		○								兼1	
	K－CIP科目	公務員試験概論	1前・後		1			○							兼1	
		数的処理Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		社会科学Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		文章理解	2後		1			○							兼1	
		数的処理Ⅱ	2前		1			○							兼1	
		数的処理Ⅲ	2後		1			○							兼1	
		社会科学Ⅱ	2前		1			○							兼1	
		人文科学	2後		1			○							兼1	
		自然科学	2前		1			○							兼1	
		憲法演習	2前		1			○							兼1	
		行政法演習	2後		1			○							兼1	
		民法（総則、物権）演習	2前		1			○							兼1	
		民法（債権、親族・相続）演習	2後		1			○							兼1	
		ミクロ経済学演習	2前		1			○							兼1	
		マクロ経済学演習	2後		1			○							兼1	
		法律科目演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		法律科目演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		経済科目演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		経済科目演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		行政科目演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		行政科目演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		会計学演習	3前		1			○							兼1	
		専門科目記述式演習	3後		1			○							兼2	共同
		公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	3前		1			○							兼1	
		文章理解演習	3前		1			○							兼1	
		人文科学演習	3前		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	3後		1			○							兼1	
		社会科学演習	3後		1			○							兼1	
		自然科学演習	3後		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）	3前		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅱ（SPI）	3後		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅲ（教養）	4前		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅲ（SPI）	4前		1			○							兼1	
		公務員人物試験対策	4前・後		1			○							兼1	
	小計（54科目）		―	0	70	0		―		0	0	0	0	0	兼12	
留学生特別科目		初級日本語ⅠA	1前・後		2			○							兼2	
		初級日本語ⅡA	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠB	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡB	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠC	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡC	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠD	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡD	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠE	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡE	1前・後		2			○							兼1	
		日本語講座Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		日本語講座Ⅱ	1後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
留学生特別科目	日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1
	日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1
	比較文化Ⅰ	2前		2		○								兼1
	比較文化Ⅱ	2後		2		○								兼1
	小計（16科目）	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼8
合計（218科目）		－	35	282	31	－			5	0	2	0	0	兼77

学位又は称号	学士（家政学）	学位又は学科の分野	家政関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合共通科目30単位以上、専門教育科目76単位以上、自由選択科目18単位以上の合計124単位以上を修得すること。なお、自由選択科目には、自学科で単位修得した科目のうち卒業に要する単位数を超える科目、及び、自学部他学科もしくは他学部で単位修得した科目を含む。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（家政学部生活デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	教養教育科目	文化・芸術領域	ことばと日本文化	本授業科目は、グローバル化された現代日本社会を生きるために必要な「ことば教育」について学ぶ。 授業は3名の担当教員がリレー形式で行う。また、著名な外部講師による講演を1回行うため、必ず出席する。 担当教員と外部講師のそれぞれの専門分野における、日本の文化や文学を中心とした授業を通して、「ことば」の意義について考える。	共同
			ことばと異文化	本授業科目は異文化に関する諸分野（外国語・文化・文学・芸術など）について学ぶことで、異文化の多様性とそれぞれの歴史や現状についての知識と理解を深め、他者を理解する広い視野・態度・志向性を涵養し、併せて日本のことばと文化を相対化して捉え直す視点を涵養することを目的としている。「異文化」の範囲は限定されないため、授業では洋の東西を問わず外国の文化文学領域を専門にした複数の教員によるリレー方式を採用し、複数の国・地域のことばと文化を具体的に教授する。	共同
			情報文化論	社会のさまざまな場面で使われるようになった情報技術や人工知能(AI)、気づかないうちに私たちの社会や生活に深く入り込んでいて、多くの恩恵がもたらされるとともに、さまざまな課題も発生している。まず情報について総合的に着目することで、情報とは何か、また、情報技術が進むことで情報に対する対応の仕方の変化について考え、情報の役割について考察する。次に、5つの時代の試行錯誤を経て、AIが見せる次の時代の模様を展望すると同時に、なぜAIは人類への脅威であると言われているのかについて説明し、さらに、AIの誕生から未来まで順を追って、ロボット、技術、人間社会との関わりなど多方面から解説する。	
			スポーツの文化	2013年にTOKYO2020が決定して以降、スポーツの気運が高まったと言える。2011年に改正されたスポーツ基本法の前文では文化としてのスポーツも強調されている。しかし一方では、ハラスメントの問題などがメディアなどで取り上げられるようになり、その影響が社会を賑わせてもいる。改めて、スポーツは人間と社会にとってどのような意味を持つのか、理解を深めていくことが問われている。本授業科目では、スポーツの概念や歴史を踏まえ、現代におけるスポーツの捉え方（フェアプレイやスポーツマンシップなど）を学ぶ。	
		歴史・社会領域	歴史と国際情勢	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それはどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際政治に対する主要な理論（リアリズム、リベラリズムなど）に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦などの歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。その結果、政治と国際問題に対する基礎的知識と能動的な思考能力を身に付けることを目指す。	
			現代国家と法（日本国憲法）	「憲法とは何か」「現代社会において憲法はどのような重要性を持つのか」「人権にはいかなるものがあるのか」「国家のあり方に関する基本原理やルールとは」― こうした基本的問題について解説する。全体の構成としては、まず憲法とは何かについて概説した後、前半部では人権に関する項目、後半部では統治機構に関する項目を主題として講義を行う。	
			暮らしと経済	人口・雇用・家族・租税・社会保障の5つの切り口から、生活と経済の関係を学び、同時に、総人口の半分を占める女性の活躍が、従来にも増して必要とされる理由と、これからの社会経済に、どのような影響力を持つのか、について考える。	
			人権・同和教育	私たちが生きていくうえで[人権]は重要な概念となる。本授業科目では[人権]とは何か、[人権]を学ぶことで何が得られ、何を行い、何をすべきではないかを学んでいく。また人権の歴史と現状を学ぶことで、[人権]の主体として行動することを通じて、差別や偏見にさらされている人々の痛みを共感できる「人間力」の育成を目的とする。私たちの社会にはさまざまな偏見や差別が存在する。この差別や偏見の意味を知ることで、個人としてより良く生き、他者への尊厳をもち、多様性を認め合える社会の一員としての教養を身に付けてほしい。	
		人間・環境領域	人間と哲学	先が不安だといわれる現代社会においては、自分らしく生きていくためにはどうすればよいのだろうか。現実と理想のはざまで、私が私らしくあるためにはどうすればよいのだろうか。本授業科目では、「この私」への問いを投げかける哲学を学びながら、自分で自分を見つめ、現代社会で生きる「私」のあり方を深く考える力を身に付ける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	教養教育科目	人間・環境領域	生命と地球	本授業科目であなたは地球の壮大な歴史を学ぶことができる。なぜ哺乳類はお母さんのお腹の中から生まれるようになったのか。なぜ人類は2足歩行を始めたのか？北米大陸の先住民と日本人の容姿が似ているのはなぜか？70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。日本人に限っては、たった9人の母親から1億2000万人に増加した。最新の研究によって明らかにされた46億年にわたる地球の歴史と生物の進化を学ぶ。	
			心の科学	本授業科目では、私達の心についてさまざまな観点からの知見を紹介する。心は直接見ることも触れることもできないが、これまでそれを知るために多くの工夫がなされ現象が解明されてきた。そのような心を知るための方法から、曖昧であるからこそ生じた問題、どのようなことが明らかになってきたのかを解説する。感覚・知覚・記憶といった基礎的な領域から社会、発達、臨床のような応用まで幅広く扱う。	
			共生社会を生きる	本授業科目では、共生社会をみんなでどのように作っていくのか、という点について現実の諸問題を知ることから考えていく。エスニシティ、ナショナリティ、ジェンダー、障害など人間のアイデンティティに関わるキーワードを押さえつつ、主にマイノリティが直面している状況について、歴史的背景を学びながら日本の現状を他国との事情比較も絡めて理解する。マジョリティ中心にさまざまな制度が設計されがちであることに意識を向けて、社会における「公平」とはどういうことなのかを考察し、今後の共生社会の可能性について検討することを目的とする。	
	言語・異文化理解科目		日本語表現法Ⅰ	大学生になると、自分の考えを文章で表現する機会が増える。試験で自分の考えを述べる問題に解答したり、レポートを作成したりする。そのため、日本語表現の基礎となる語彙や文法、表記に関する知識を身に付ける必要がある。また、社会では状況に応じた表現能力が必須となる。本授業科目では、レポートの作成を中心に、これらの知識・技能の習得を目指す。毎回の授業では、授業内容を踏まえたワークシートに取り組み、知識の定着を図る。	
			日本語表現法Ⅱ	本授業科目では、書くこと・話すことに関する、より実践的な日本語運用能力の習得を目指す。資料の検索の仕方、レジュメの作り方、プレゼンテーションの行い方など、大学生活で必要とされる技術について学ぶ。さらに、小論文やエントリーシートの書き方といった就職活動で求められるスキルを身に付け、敬語でコミュニケーションする力など、日本語運用に関する社会人基礎力を養う。	
			伝わる文章力	本授業科目では、文章検定準2級レベルの文章力を身に付けることを目的とする。文章検定準2級のレベルは「実社会での有効なコミュニケーションを実現するために必要な文章読解力および文章作成力」とされている。授業では、文章検定準2級の合格を目指して問題演習を行っていく。問題演習を通して、語彙力や文法に関する知識を身に付けるとともに、説得力のある文章の作成力を向上させる。同時に漢字検定2級レベルの漢字力も身に付けることを目的としている。	
			英語Ⅰ	大学では就職試験やTOEICなどに対応できる英語力が求められるが、このような内容にチャレンジするためには、今までの学力を土台とした更なる基礎固めが必要不可欠である。本授業科目では、文法項目を復習しながら、英文を4技能を通してバランスよく学習し、シンプルな英文を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりすることができる実践的運用能力を養う。	
			英語Ⅱ	就職試験やTOEICなどに対応できる英語力を習得するために、「英語Ⅰ」と同様に、更なる基礎固めを引き続き行う。本授業科目では、学習した文法項目から成る英文を4技能を通してバランスよく学習しながら、複雑な英文を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりすることができる実践的運用能力を養う。	
			英語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、「英語Ⅰ・Ⅱ」で固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しながら、リスニングスキルとスピーキングスキルを高めることを目指す。これらのスキルの強化によって、資格のための英語スキルアップ講座の学びへと繋がることも目指す。	
			英語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、「英語コミュニケーションⅠ」から継続して、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しながら、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに高めることを目指す。これらのスキルの強化によって、資格のための英語スキルアップ講座の学びへと繋がることも目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	言語・異文化理解科目	ＴＯＥＩＣ入門	TOEIC形式のテストに必要な基礎的な英語力の習熟を目標にTOEIC受験対策学習を実践的に行う。リスニング問題ではPart 1（写真描写）とPart 2（応答）の表現と回答の方法に馴れることに、リーディング問題では Part 5に必要な基本的な文法事項の復習に学習の重点を置き、学内および学外のTOEICテストで350-400点に到達することを成果目標とする。	
		フランス語Ⅰ	フランス語をゼロから学ぶ。基礎的な文法習得と正しい発音による口頭練習を重視する。具体的には、前週に文法プリントを渡して宿題とし、翌週の授業冒頭に確認の小テストを行う。次いで、ペアによる会話練習、DVDを使った学習、練習問題による文法事項のより深い理解へと続く。DVDを使った学習としては、フランス語版「TOTORO」を使ってきまり文句を覚えたり、フランス旅行のビデオを見て異文化を理解したりする。	
		フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」の学習を継続する。「フランス語Ⅰ」と同様、基礎的な文法習得と正しい発音による口頭練習を重視する。具体的には、前週に文法プリントを渡して宿題とし、翌週の授業冒頭に確認の小テストを行う。次いで、ペアによる会話練習、DVDを使った学習、練習問題による文法事項のより深い理解へと続く。DVDを使った学習としては、フランス語版「TOTORO」を使ってきまり文句を覚えたり、フランス旅行のビデオを見て異文化を理解したりする。	
		中国語Ⅰ	本授業科目は、初心者向きの入門である。短い会話文（8文字以内）の教科書を使用する。人気漫才コンビによる中国語発音のビデオを活用し、中国語学びの楽しさを求める。「中国語Ⅰ」では、中国語漢字の発音符号である拼音（ピンイン）の習いをはじめ、初対面の挨拶、自己紹介、数字、日付などを学ぶ。また、「麻婆豆腐」など中華料理についての解釈は授業内容の一部分である。この中国語授業の最終目標は「中国語で中華料理の注文ができる」ことである。	
		中国語Ⅱ	本授業科目は、「中国語Ⅰ」を習った者を対象とする。「中国語Ⅰ」に引き続き会話中心のスタイルを堅持しながら書き能力にも力を入れる。最終目標の「中国語で中華料理の注文ができる」を実現させるため、中国語による中華料理メニューの学びに重点を置く。メニューについての解釈はもちろん、調理法、味付けに関する中国語の表現も多く学ぶ。実用と実践の内容として「直接注文」と「間接注文」などの注文するための基本文型を覚えてもらう。	
		韓国語Ⅰ	初めて韓国語を学ぶ学生向けの韓国語の初級入門クラスである。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、文章・会話表現の基礎を固めていく。できる限りペア・グループワークを取り入れ、「聞いて話す」ことに重点を置きつつ、「読む」「書く」力の習得も目指す。また、画像・映像や実物などの資料を用いて韓国の文化、慣習、歴史なども適宜紹介し、文化・異なる価値観に触れるようにする。	
		韓国語Ⅱ	本授業科目では「韓国語Ⅰ」で学習した表現などを活かし、初級でつまずきやすい発音をしっかりと練習しながら、文章・会話表現の基礎を固めていく。できる限りペア・グループワークを取り入れ、「聞いて話す」ことに重点を置きつつ、「読む」「書く」力の習得も目指す。また、画像・映像や実物などの資料を用いて韓国の文化、慣習、歴史なども適宜紹介し、文化・異なる価値観に触れるようにする。	
		イングリッシュワークショップ	英語でのコミュニケーション能力は将来のグローバル人材に必要なスキルの1つである。本科目では、留学を希望する学生、小学校教員採用試験受験を目指す学生、広い範囲で英語力を必要とするキャリア志向の学生などを対象として、英語のみでコミュニケーションを取り、英語のみで表現する活動を体験することで、個々人の現在の語学スキルを把握・向上させ、同時に、学習者の自発的な英語学習の動機付けになることを目指す。ネイティブスピーカーを中心としてさまざまなアクティビティを行い、学生自身が英語でアウトプットを積極的に行う授業を展開する。	共同
		海外研修	本授業科目は、本学の海外協定校が提供する外国語研修プログラムに応募し、本学で実施する事前研修を受講のうえ、90時間以上の外国語研修プログラムの受講を完了した場合、所定の手続きを経て2単位が与えられる科目である。	
	情報教育科目	情報処理演習Ⅰ	コンピュータを操作するために必要な基本知識と技術について演習を通じて学習する。ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を演習し、わかりやすい資料を作り、人に伝えるための手法について習得する。さらに、電子メールの仕組みや操作、インターネットやWeb検索について学習すると同時に情報倫理について学び、情報社会のモラルを身に付ける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	情報教育科目		情報処理演習Ⅱ	近年、データサイエンスが注目されている。さまざまなデータを対象として、データの収集・加工・処理、データの分析とその活用を目的として、基本知識と基本技術を学習する。主に表計算ソフトを使用するが、適宜他の題材も用いる。具体的なデータを用いて、データ活用と必要なスキルについて演習する。	
			情報処理演習Ⅲ	デジタルトランスフォーメーション（DX）に向けて、社会人として必要なスキルの1つとしてはデータ分析能力である。データベースの概要について理解するとともに、データの基本的な概念や分類、多様なデータの適切な管理・活用技能について学習・演習する。また、ビッグデータ解析の一手法としての時系列分析の基本的な各種分析手法を取り上げ、データ処理の考え方と手法について実践する。	
			情報処理演習Ⅳ	コンピュータを利用するための基本知識と基本技術を、プログラミング演習を通じて学習する。プログラミング言語を用いて、プログラミングとはどのようなものであるかを学習し、実際のプログラム作成の演習を通じて、プログラミングの基礎やアルゴリズムに対する基礎的な理解を深め、問題を解決するための考え方を学ぶ。	
			情報科学概論	情報の基礎概念とコンピュータの基本的仕組みについて学習する。デジタルとアナログの違いやハードウェアとソフトウェアさらにオペレーティングシステムの概念について理解し、さまざまな活用法についての知識を習得する。LAN やインターネット、通信技術の基礎的理解からWWW や電子メールによる実際的活用について学習し、コンピュータの動作原理を理解し、情報科学の基礎的理解を深める。	
			データサイエンス	得られたデータをどのように処理するのか、また、そこからどのような解釈が可能となるのかを体系的に理解する必要がある。さまざまなデータから科学的な知見を得るためには、統計学的な手法を用いてデータ処理を行うのが一般的である。まず基本的な統計学の知識について学習する。次に具体的なデータを用いて実践的な統計処理や分析の仕方について学ぶ。	
			アルゴリズムとプログラミング	プログラミングに必要となる問題解決のための手順や方法であるアルゴリズムの基本知識やプログラムの基礎について学習する。プログラムの勉強に欠かせないアルゴリズムとは何かについて解説し、アルゴリズムの種類や役割、そしてアルゴリズムを学ぶ意味について学習する。また、問題を解決するための考え方などについて解説する。	
			ＩＣＴ活用法	現代社会では多くのICTを活用することが社会人として必須となっている。コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の操作に習熟するだけでなく、それぞれの情報手段の特性を理解し、有効、適切に活用することができるようになるための授業を行う。情報手段の特性を説明でき、ICT機器を適切に操作・活用できることにより、教育現場で授業中、準備と評価においてのICTの活用、企業におけるICTの活用に関する内容について実践的な学びを展開する。	
			情報処理技術	ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識について学習する。新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法の概要に関する知識をはじめ、企業や経営全般の知識、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を学ぶ。ITを正しく理解し、効果的にITを利活用することのできる力を身に付ける。	
	健康教育科目		スポーツ	受講生が、新たな学びの場である大学という環境に順応できるよう、仲間づくりや健康の保持・増進に努めるべくスポーツ支援を行う。なお、運動領域の種目内容については受講生自らが選択することで、自己の能力に応じた楽しみ方での身体活動を行う。さらに、健康に関する基礎・基本の活動を通して、楽しさ（できる・わかる・つどう）を味わうとともに生涯体育の意識化を図る。	
			健康の科学	人間の身体と心の健康について科学的、実践的に学ぶ。心の健康については精神的なストレスが身体に及ぼす影響や依存症、摂食障害などを理解したうえで自己の生活を振り返り、健康状態や生活習慣のあり方を追究する。身体の健康については現在の自己の生活習慣を見直し、体重・体脂肪・コレステロールなどのコントロールの方法や運動による対処法を検討する。自己の健康管理能力を高めるだけでなく、教育者として子どもの健康管理について学ぶ。	
	キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	キャリア基礎演習Ⅰ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とし、学修などの記録（学修ポートフォリオ）を習慣付け、自己理解・自己管理能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	キャリア基礎演習Ⅱ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自己理解・自己管理能力および課題対応能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
			キャリア基礎演習Ⅲ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自分自身の課題などを把握したうえで、自身のキャリアを考える。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
			キャリアデザインⅠ	本授業科目では、本学での学びでDPを達成するための基礎力、および、将来のキャリア形成に必要な社会人基礎力の涵養を目的とした初年次教育を行う。キャリアデザインの学び、建学の精神と本学歴史の理解、専門科目と総合共通科目のカリキュラム構成の理解、キャンパス内でのマナーなど、本学学生としての第一歩を学ぶ。さらに、ブックカフェによって初対面の人々とのコミュニケーションの取り方を体験し、さらに、チームによる課題解決型学習へと展開する。この学習ではチームで力を合わせて一つの目標をクリアし、プレゼンし、ピアレビューを行うことで、課題発見能力、発信力、傾聴力、実行力、ストレスコントロールなど、キャリア形成に必要な諸々の力の自覚を促す。	
			キャリアデザインⅡ	本授業科目は、自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものである。社会で求められる人物像や職業についての理解を深めながら、自己に適した職業を明確にするとともに、将来に向けての準備（就職活動）を行う。そのため、講義だけではなく、個人ワークやグループディスカッションなどを取り入れた授業を実践的に展開する。	
			キャリアデザインⅢ	本授業科目は、自らが希望する卒業後のよりよい進路を獲得するためのものである。社会で求められる人物像や職業についての理解を深めながら、自己に適した職業を明確にするとともに、将来に向けての準備（就職活動）を行う。そのため、講義だけではなく、履歴書の作成や学内業界研究セミナー、面接対策などを取り入れた授業を実践的に展開する。	
			インターンシップⅠ	本授業科目は、就業体験としてのインターンシップを行うために必要な知識・理解、技能、態度・志向性を涵養することを目的とし、次の4つの内容について座学と研修を組み合わせた集中講義形式で開講する。 (1) インターンシップの持つ意味、インターンシップのあり方、社会が求める主体性を発揮する人材とは、などについての講義 (2) コミュニケーションの取り方や傾聴力育成のワークの実践 (3) 北九州市が力を入れる取り組みと企業の種類や特色についての講義 (4) 市内企業の訪問	共同
			インターンシップⅡ	本授業科目は実際にインターンシップに参加することで、就業やキャリア形成についての意識や考え方を深め、職業人としての即戦力を身に付けることを目的とする。民間企業や官公庁などが実施する各種インターンシップに参加し、社会人基礎力としてのコミュニケーション力・分析力・課題解決力・行動力などの能力の育成にどのように努力したか、また実際にどのような体験が得られたかを報告書としてまとめ、必要な時間を積み上げて単位とする。 「インターンシップⅠ」の2単位を修得後に、大学での事前学習も含めて実際に参加した通算90時間以上の実習に対して、所定の手続きを経て2単位が与えられる。	
		キャリア発展領域	スキルアップ講座Ｂ	本授業科目では、TOEIC受験対策の英語、または英検受験対策の英語を実践学習する。TOEIC対策では、リスニング力・文法力・長文読解力・語彙力などのスキルを向上させ、リスニングとリーディングの問題解答のコツを学ぶ。英検対策では、短文・会話文・長文の穴埋め問題の解答のコツを学び、典型的なトピックについて英文での論述を実践する。学習の成果を確認するために、学内開催のTOEIC IPとTOEIC Bridge IPや学内実施の英検にトライする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	キャリア教育科目	キャリア発展領域	スキルアップ講座Ｃ	本授業科目では、「スキルアップ講座Ｂ」から継続して、TOEIC受験対策の英語、または英検受験対策の英語を実践学習する。TOEIC対策では、リスニング力・文法力・長文読解力・語彙力などのスキルをより向上させ、リスニングとリーディングの問題解答のコツを継続して学ぶ。英検対策では、短文・会話文・長文の穴埋め問題の解答のコツを継続して学び、典型的なトピックについて英文での論述も継続して実践する。学習の成果を確認するために、学内開催のTOEIC IPとTOEIC Bridge IPや学内実施の英検にトライする。	
			スキルアップ講座Ｄ	教職課程履修者で中学校・高等学校（家庭科）の教員を目指す学生が、教員採用試験を受験するにあたって必要な基礎的・基本的学力を、教員養成講座（教職教養）を受講して身に付ける。教職教養の内容は、教育原理、教育心理、教育法規、教育史、学習指導要領などである。	
			スキルアップ講座Ｅ	教員養成のための授業科目であり、教員採用試験受験に必要な「提出書類の書き方」「面接」「場面指導（模擬授業）」「集団討論」について理解し、全体・個別の指導・助言を受けることで、実践力を身に付ける。また、二次試験対策として被服および調理の実技実習を行う。	共同
			スキルアップ講座Ｒ	「スキルアップ講座Ｂ・Ｃ」からさらに発展したTOEIC受験対策、または英検受験対策の実戦的学習を行う。TOEIC対策では、リスニング問題Part 3とPart 4の対策の強化、リーディング問題ではPart 6とPart 7の対策の強化に重点を置き、英検対策では、英文論述問題とリスニング問題への取り組みを強化する。学内および学外のTOEICテストで550点に到達すること、英検では2級の合格を到達目標とする。	
			スキルアップ講座Ｓ	「スキルアップ講座Ｒ」から継続して、発展的なTOEIC受験対策、または英検受験対策の実戦的学習を行う。TOEIC対策では、リスニング問題Part 3とPart 4の対策の強化、リーディング問題ではPart 6とPart 7の対策の強化に重点を置いた学習を継続し、英検対策では、英文論述問題とリスニング問題への取り組みの強化を継続して行う。学内および学外のTOEICテストで550点に到達すること、英検では2級の合格を到達目標とする。	
専門教育科目	学部共通科目		家政学概論	家政学部の学生として、これから学ぶ各専門領域の学問的意義を理解し、基礎的知識を習得する。具体的には、人の健康や生活に関して各自が総合的かつ独自の見識をもてるような講義を行う。また、実務経験がある教員が担当することによって、各現場での実際を伝える。家政学部の学生が各自の進路に向かって前向きに進もうとする気持ちを育むような導入教育としても位置付ける。	共同
			人間関係論	日常生活における思考や情緒、認知、行動について振り返り、私たちを取り巻く人間関係を心理学的な観点から理解できる力を身に付けることを目標とする。我々の社会的行動を支えている心理的機能について、基礎的な概念および理論を、日常場面における具体的な話題と関連付けながら解説していく。講義中、ワークシートを用いたグループワークを実施する。	
			統計学	統計調査は社会生活に関連する事柄について定量的に理解するために重要な役割を果たす。この授業では、はじめに統計調査の種類や過程、統計分析の主な手法について学ぶ。また、Excelを用いて分析する手法についても学び、自ら調査を計画・実施し、調査から得られたデータの統計分析を行う基本的な能力を養うことを目的とする。	
			カウンセリング論	カウンセリングの技法は、医療と教育の分野のみならず、現在多くの領域で、またさまざまな形で活用されてきており、大きな広がりをみせている。確かにカウンセリングの技術は、さまざまな領域で、またさまざまな形で活用できるものである。本授業科目は、カウンセリングについての基本的な理論とカウンセリングの技法について実例を交えながら講義し、カウンセリングの基礎知識を学んでもらうと同時に、それぞれの専門分野や日常生活での活かし方を考えていく機会にしてもらいたい。	
			フードスペシャリスト論	本授業科目は、フードスペシャリスト養成施設として、認定試験に係る科目として開設された科目である。フードスペシャリスト試験に合格し、食のスペシャリストとして活躍できるための素養を培う。 フードスペシャリスト認定試験受験に関わる知識を確認しながら、食に関する歴史と現在から見えてくる食に関する問題点、食育の大切さを考える。それらを踏まえてフードスペシャリストとしての活躍の場をさぐる。また、食に関するデータを収集し、自分に必要な部分をまとめ、情報として発信することの大切さを学ぶ。	
			食品の官能評価・鑑別論	フードスペシャリスト資格取得のための必須科目である。講義内容は、官能検査による食品の評価法、化学的評価法、物理的評価法を学ぶ。さらに、個別の食品についての品質特性を解説し、それぞれ鑑別を行う知識や技法を身に付ける。また、フードスペシャリスト過去問の演習や官能検査の演習を行い、理解を深める。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部共通科目	教職概論	教育職員である教師にとって必要なことを学ぶ基本的・入門的な内容である。教職の意義や教師の役割、教師の仕事内容についての理解を深め、自分の教職への意欲、適性について考える機会とする。具体的には、現在の教員に求められている資質能力および資質向上のための研鑽や研修、教員養成の歴史、教師になって関わる教育・指導の内容、学校を中心とした職場環境などについて講義する。授業における省察や討論にも積極的に参加することを求める。	
		教育原論	教育とは何かを理解するために教育についての基礎的・基本的な知識を習得し、教育のあり方について考える授業である。特に学校教育を中心にみていく。具体的には、子どもと教育の現状、教育に関する主要な理念や思想、歴史、教育に関する基本的な法律と制度、学習指導要領などにみられる学校教育の内容と方法、道徳教育や特別支援教育などの動向、家庭や地域社会の教育機能などについて学び、児童・生徒の成長・発達をよりよく支援することについて考える。	
		教育心理学	生徒が「わかる」ために教師はどのような指導をする必要があるのか、生徒の「知る」ための自発的な意欲を教師はどのように育てるのか、心身の発達過程および学習過程について理解するとともに、教育場面にどのように生かすかを学ぶ。	
	学科共通科目	生活デザイン概論	これから生活デザイン学科で学ぶ知識を活かし、社会で課題発見・解決の糸口を見つけるために必要なコミュニケーション能力を身に付ける大切さを学ぶスタート科目とする。具体的には、「自分の意見を持つこと」「自分の意見をわかりやすく発信すること」「他人の意見の意図を理解すること」「お互いの意見からよりよい方向に意見をまとめること」を体験しながら、地域社会との関わりを意識した学びの意味や社会人基礎力の重要性を理解し、自分の意見の発表、議論する大切さを学ぶ。	共同
		生活デザイン演習	生活デザイン学科での学びを基に社会に貢献できるプレゼンテーション能力の基礎的スキルを身に付ける科目である。具体的には、ビブリオバトルおよび課題解決型ワークショップを開催し、KJ法とBS（ブレイン・ストーミング）を用いたグループワークの方法を学ぶ。個々人のプレゼンテーション、グループワーク、グループでのプレゼンテーションおよびレポート作成を取り入れながら授業を展開する。また、学科菜園での栽培活動を通して作業の分担、モノを見る目を養う。	共同
		家族関係学（生活福祉を含む。）	本授業科目は、近年多様化している家族関係や家族を取り巻く環境に適切に対応し、よりよい家庭生活を主体的に営むための資質を培うことを目標としている。そのためにまず、現代の家族の実態や課題を各種資料・統計データを用いて家族社会学の立場から把握する。そして、生活福祉制度などの知識を得たうえで他者との意見共有を通じて多様な価値観を受容しながら自身の考えを深め、構築していく。	
		消費生活論	消費者を取り巻く環境には、主に社会環境と地球環境がある。社会環境については、消費者問題の現状と課題、悪質商法の手口と回避法、契約の仕組みとトラブルの対応策、消費者信用の種類と留意点、多重債務の予防および解決法、金利計算、購買における批判的思考などを学ぶ。自然環境については、自身の衣・食・住生活が地球環境に及ぼす影響を意識し、持続可能社会を実現するためにできることを自覚する。これらを実生活で活かし、具体的に行動できる知識、思考様式、実践力の定着を図るため、アクティブラーニングも取り入れた授業を行う。	
		被服学	衣服は、私たちの生活の「衣」「食」「住」の中で最も身近の環境で、「第二の皮膚」とも言われている。しかし、身近ゆえに衣服のことを理解していないことが多い。そこで、本授業科目では、衣服についての科学的基礎知識と、日常での衣服について、生活の中での実例をあげながら、わかりやすく解説する。	
		食物学	食品学で得た基礎知識に基づき、人間の食生活における食べ物を取り巻く諸問題に科学的・総合的にアプローチする。バランスの良い食事を摂取するための正しい食品選択を可能にするために、食物の分類と特性を知る。具体的には、食品成分表の分類に基づき、各食品群の特性や調理性などを学び、バランスのとれた食生活をするために必要な食品群の組み合わせを考える。	
		住居学（製図を含む。）	人間の生活の器である住居の役割と住生活に対する理解を深めることを目的とする。住居は、風雨熱光音の自然条件から人間を守るとともに、就寝、食事、育児、休養、だんらん、家族のコミュニケーションなど個人、あるいは家族が生活を営む場としての役割を持っている。住まいと住生活の歴史、住様式、住居管理のさまざまな領域について住まい手の視点に立って理解する。さらに、図面を通して、生活を表現し伝達する方法も学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	家庭科教育コース	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	保育学は「家庭」の学習内容に位置付き、乳幼児が自立的に生きる基礎を培うために、基礎的人間教育の育成を目指す。そのために乳幼児期の成長過程を捉え、保育者の援助について理解を深める。また、保育にあたって社会の制度や取り組みを知り、心身ともに健康で安全な乳幼児の育成における基本的な知識・技術を身に付ける。	
			生活経営学（生活経済学を含む。）	本授業科目では、自己および家族の夢や目的を達成し、よりよく生きていくための考え方と手法を学ぶ。具体的には、社会保障制度、キャリアプランニングの知識および時間管理・家計管理のスキルを身に付け、そのうえで主体的に実生活を営めるよう「一人暮らしのデザイン」「ライフプラン」を作成する。	
			家庭電気・機械	家庭で利用される機械および電気・電子・情報機器の基礎知識の理解とともに、それらを安全に取り扱う能力の習得を目指す。また、環境に配慮した家庭におけるエネルギーの利用方法の検討を行う。	
			家庭科情報処理演習	現代社会では、日常生活や社会的業務でコンピュータとコンピュータネットワークを利用することは必須である。これには、ワープロソフト、表計算ソフト、画像処理ソフト、プレゼンテーションソフトなどを組み合わせて総合的に利用できる必要があり、さらに、コンピュータを使ってネットから情報を入手し、加工し、発信する技術も求められる。この演習では、各種アプリケーションの利用およびそれらを連携した利用方法などについて学ぶ。	
			被服構成学	人と被服との関わりを用と美の両面から追求し、より着心地よく、しかも生理的・心理的・社会的要求に適合する被服設計の基礎的原理と方法について解説する。また、基礎的な作図およびパターンの展開、スタイル画の作成などを通して、被服の構成についての理解を深める。	
			被服構成学実習Ⅰ	被服構成の基本原理を理解するために、本授業科目ではセミタイトスカートの製作を行う。被服構成学で学んだ衣服原型論を実習に移し、採寸後各自の下半身体型に基づいて作図を行う。仮縫い後パターンを修正し、修正したパターンで製作を行う。最終回は製作したセミタイトスカートを着用し、2パターンのコーディネートの写真を撮影する。	
			アパレルＣＡＤ演習	アパレル業界ではCADを利用した生産システムが確立しており、被服系大学において職業教育としてCADを学ぶことが必須である。また、被服系高校にもCADを導入しているところがあり、家庭科教員を目指す者としてCADの知識は必須である。本授業科目では、アパレルCADの基礎的な技術およびパターンメーキングの手法を学ぶ。また、被服構成学実習Ⅱと連動して行い、同実習で採寸したデータを利用し、各自の上半身体型に基づいた原型およびブラウスの作図をアパレルCADで行う。	
			被服構成学実習Ⅱ	「被服構成学」「被服構成学実習Ⅰ」の発展として、上衣であるブラウスの製作を行う。「被服構成学実習Ⅰ」と同様に「被服構成学」で学んだ衣服原型論を実習に移し、各自の上半身体型に基づいた原型およびブラウスパターンを使用し、仮縫いを行う。その後パターン修正を行い、修正したパターンでブラウスの製作を行う。最終回は製作したブラウスを着用し、2パターンのコーディネートの写真を撮影する。	
			被服構成学実習Ⅲ	和裁の基本である浴衣の製作を行う。着物の名称を学び、採寸後各自の寸法で基本に基づいた裁断、印付けを行う。全て手縫いで製作を行い、手縫いの基本である「運針」や和裁特有の縫い方（耳ぐけ・折りぐけ・本ぐけ）を習得する。最終回は製作した浴衣の着付けを学び、自装で着装し写真撮影を行う。	
			食品学	健康志向時代の昨今、食品に求められる条件は安全性・栄養価・経済性・持続可能性である。本授業科目では、普段食べている食品の中に含まれる健康を維持するために必要な栄養素について理解する。主要栄養成分、色素成分、呈味成分などに分類し、成分の種類・性質・働きなどについて解説する。	
			栄養学	栄養学は人間が食物の栄養素を体内に取り込み正常な栄養状態により健康を確保するための学問である。本授業科目では、まず近年の栄養学の発展について紹介し、生活環境と疾病、栄養素の種類と働き、各栄養素を含む食品、ならびに消化吸収とエネルギー代謝について学び、生命維持と日常の活動の原動力となるエネルギー生産・消費のメカニズムを解説する。さらに人々のライフサイクルや生活状況の違いに応じた適切な栄養摂取について講義する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	家庭科教育コース	調理学	家政学士に相応しい調理の基礎的知識を習得し、調理実習や日常の調理を円滑に行うために、調理学について体系的に学ぶ。各食品の調理特性を踏まえ、さまざまな調理操作によって生じる変化について、物理的・化学的・組織学的観点から総合的に学習し、主に日常の調理操作の科学的根拠について解説する。食品成分表の活用方法と栄養価計算方法を知り、食に関する文化的側面についても理解を深める。毎授業始めには確認プリントを行い、1年次から教員採用試験、フードスペシャリストなどの資格試験を踏まえた調理の基礎的知識の定着を図る。	
			調理学実習Ⅰ	「調理学」や「食品・調理学実験」で学んだ食品の調理性についての理論を、和洋中の調理実習を通して理解を深めるために行う。安全面や衛生面に留意し、基本的調理操作の技術の習得を行う。自由献立実習のテーマは、「20歳女子の一食分にふさわしい献立」とし、各班でたてた献立を基に実習を行い発表する。毎回の実習に対して予習と復習を行うことで、授業だけでは身に付きにくい知識や技術の定着を図る。食品素材の仕入れ状況などにより、テーマとおりにいかない場合もある。また、学外研修として中華料理のテーブルマナーを行う。	
			調理学実習Ⅱ	「調理学実習Ⅰ」で学んだ知識と技術を本授業科目で発展させ、旬の食材を使用し日本や諸外国の料理について実習を行う。自由献立は「夏の行楽弁当」をテーマに行う。加工実習として梅漬けなどを作る。各班で1品ずつ受講者全員分の調理をし、試食を行うことで食の楽しみを知る。毎回の実習に対して予習と復習を行うことで、授業だけでは身に付きにくい知識や技術の定着を図る。なお、食品素材の仕入れ状況などにより、テーマとおりにいかない場合もある。学外研修として日本料理のテーブルマナーを行う。	
			調理学実習Ⅲ	本授業科目では、「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」で培った知識と技術を基にして、人が生きていくうえで知っておくべき食についてや豊かな食生活を送るうえで必要な内容を習得するために実習を行う。この授業は、家庭科教員志望者および食分野に進みたい者にとって、特に重要な内容である。その詳細は、①ライフステージ別調理実習、②家庭科教科書記載献立実習、③郷土料理等実習、④食品加工実習、⑤災害時の食という5つである。なお、食品素材の仕入れ状況などにより、テーマとおりにいかない場合もある。	
		インテリアデザインコース	色彩学	私達の生活に大きく影響を受けている「色彩」について学んでいく講義である。色彩と脳の関係性、配色など、色彩の基礎を理論的に捉え、色彩に関わる心理的、物理的な効果や影響について、実践を通して学んでいく。また、適宜映像、美術作品画像などを鑑賞し、より身近な物と色彩について理解を深めていく。	
			地域住宅地計画	生活環境としての基礎的な考え方を建築とまちづくりの観点から総合的に学ぶ。 急速に変改する現代社会において、人間関係の根本を作り出す住宅とその周辺要素についても例外ではない。過去の事例を通じながら、現代社会において、まちづくりの概念は根本から考え直さなければならず、建築、モビリティー、ネットサービスまで広い知識が必要とされる。一方で建築士としての実務経験を活かして、住民参加のワークショップの手法や、最新の住宅地事例などを紹介し、今後の地域住宅地計画の展望や考え方を掴む。	
			住居管理学	住居に限らず建物のスクラップアンドビルトを繰り返してきた日本では、住居を管理することの重要性に対する認識に欠け、その仕組みもなかった。しかし今日では、住宅ストックを活用する政策への転換により、住居管理の重要性に関心が向けられるようになってきている。授業では、これまでの住生活管理の課題を整理し、地球環境の保全、住宅の検査・改善についての知識を身に付け、アクティブラーニングを通して住居管理への積極的参加の必要性を理解することで、良好な住環境の管理のあり方を学ぶ。	
			インテリア計画	人間の最も身近な空間としてインテリアは、安全で快適な環境であることが望まれる。また今日、自身の生活と感性にふさわしい、個性あふれるインテリアへの関心が高まってきている。授業では、日本と西洋のインテリアの歴史を学んだうえで、人間と空間との関わり、インテリアの構成要素の機能と仕上げ、人間工学の意味と応用など、住まい手の視点に立ってインテリアのあり方を解説する。	
			建築・インテリア設計入門Ⅰ	設計製図の第一歩として、鉛筆による製図の完成などを習得する。フリーハンドの線の練習と定規を使った線の練習を行い、教科書に沿って平面図と立面図、断面図のトレースまでを一通り演習させる。なお、「建築・インテリア設計演習Ⅰ～Ⅴ」の履修を予定する者は、この演習を履修することが望ましい。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	インテリアデザインコース	建築・インテリア設計入門Ⅱ	CAD作画を習得する。「建築・インテリア設計入門Ⅰ」で習得した図面の描き方を基に、CADを使って平・立・断面図を作成できるまで練習する。この演習でCADを覚えて以降の設計演習の提出図面は、基本的にCADで作画して提出する。なお、建築・インテリア設計演習Ⅰ～Ⅴまでの履修予定者は、この演習を履修することが望ましい。	
			建築計画Ⅰ	本授業科目では、住居計画だけでなく、建築計画の基礎を通して、人間生活を豊かにする空間デザイン全般について、どのような視点が大切かを学ぶ。そのために建築計画全般の基礎的な知識、空間の構成原理、各種建築計画理論などについて幅広く学んでいく。また、古今東西の優れた建築デザイン事例についても、視覚的に紹介する。	
			建築計画Ⅱ	「建築計画Ⅰ」に続き、各種建築物の計画を解説する。二級建築士やインテリアコーディネーターの試験での出題範囲の建築物を中心に、中規模の設計事務所や工務店が扱うと思われる建築物の計画手法を理解できるように授業を進める。建築物の種類毎に注意事項が異なるため、建築物ごとに注意点を整理して理解できるように進める。	
			建築史	本授業科目では、過去から現在にいたる国内国外の主要建築・環境デザイン作品について概観する。建築・環境デザインに関する歴史の流れを理解するとともに、過去を知ることで、現在を理解し、未来に何が大切かを見通す力を身に付ける。また、空間の特質と時代や場所との関係について自分自身の知見を持つことで、それらの視点を今後の建築・環境デザインの計画・設計提案や研究テーマに活かす力を身に付けていく。	
			建築環境工学	建築環境工学は、安全・健康・快適な室内環境・都市環境を実現するための計画の基礎となる学問分野である。室内環境はそこに在住する人間の健康や快適性を左右する大切なものである。本授業科目では、室内環境を構成する要素を理解し、その物理的特性の基礎知識について学ぶ。また、近年問題視されている高齢社会に適合する建築環境、特に温熱、光および空気環境と高齢者の健康についてアクティブラーニング形式で学習する。	
			建築設備学	健康で充実した生活空間を計画し、維持していくためには、建築デザインや構造・材料に関する学問だけでなく、建築設備の知識や技術の習得も重要である。つまり、住宅やその他の建物において、水まわりの設備（給排水設備、台所・浴室）、冷暖房や換気設備、衛生設備（トイレ）、ごみ処理設備、照明設備などが正しく設計・施工され、かつ合理的に運用されることが大切である。これらの設備は環境問題やエネルギー資源の有効利用と密接な関係があるため、近年ますますその重要性が認識されつつある。本授業科目では建築設備の基礎について学習する。	
			建築一般構造学	建物をつくるためには、基本的な構造のしくみを理解することがとても重要となる。はじめに、建築構造の概要について図や実際の建物の写真などを紹介しながら学ぶ。次に木造建物を中心に、その特徴、構造形式や屋根、壁、床、天井などの構法の構成、さらに建物の外部や内部の仕上げについて学ぶ。その知識を用いて在来木造住宅の構造模型を制作する。最後に鉄筋コンクリート造建物や鉄骨造建物について、それぞれの特徴、構造形式、材料について学び、さらに部材同士の接合方法や、骨組の構成について学ぶ。	
			建築構造力学	建物を構成する骨組には、1）必要とされる建築空間を実現する、2）快適な居住環境を実現する、3）地震・台風・大雪の場合にも住んでいる人々の安全を確保する役割がある。建築構造力学は、建物を安全に構築するための基礎となる学問である。まず、建築構造力学の基礎である「力の釣り合い」を学ぶ。次いで、比較的単純な建物の骨組に対して、「力が作用したときに建物の骨組内部に生じている力の算定方法」を学ぶ。本授業では、建築構造力学をより深く理解するために、演習問題を多く解きながら学ぶ。	
			建築材料学	建築、インテリア分野に関連する材料全般の基礎的知識を身に付けるとともに、その実際の活用事例についても学ぶ。 インテリアコーディネーターに関連するハンドブックなどを参考として、材料学の基礎知識と多様な建築材料の多くの活用事例を視覚的に紹介する。	
			建築施工学	建築物は施工というプロセスを経て実現される。建築施工は、現状の施工技術をベースとして、契約書類で要求される工期および性能を、安全かつ健全な工事を通して、コストならびに環境にも配慮しながら実現するものでなければならない。本授業科目では、施工管理の基礎項目とその流れおよび建築施工技術各論について講述する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	インテリアデザインコース	建築法規	建築法規は、建築基準法、建築基準法施行令、都市計画法、建築業法、建築士法などによって構成されている。また、建築物を計画・設計するうえで欠かすことができないルールで、国民の生命、健康および財産の保護を図っている。本授業科目では、建築法規の中核となる建築基準法を中心に教科書および参考書を使用して、その条文の内容を住宅関連の条項に絞り込みわかりやすく解説する。	
			建築・インテリア設計演習Ⅰ	これからの暮らし、新たに求められる空間を創出していくための基本的な計画手法やアイディアを生み出すための思考の方法を修得することを目的に、インテリア・建築の理論のみならず、設計・デザイン手法の基礎を実践的に学ぶ。	
			建築・インテリア設計演習Ⅱ	住宅の設計に必要な基礎的な知識と、製図の技術を習得するために、実際に小住宅などの設計を自力で行い、平面図の作成まで行う。第1課題で住宅図面のトレースを完成させ、第2課題は住宅の自由設計とする。製図はCADによる製図を前提とし、CAD技術の向上も同時に習得する。自分の作品の発表を行うことで、図面と言葉によるプレゼンテーションの練習も行う。	
			建築・インテリア設計演習Ⅲ	これからの暮らし、新たに求められる空間を創出していくための計画手法、アイディアを生み出すための思考の方法を修得することを目的に、インテリア・建築の理論のみならず、設計・デザイン手法を実践的に学ぶ。	
			建築・インテリア設計演習Ⅳ	前半は、インテリアコーディネーターとして、顧客のニーズを聞きだし要望を提案書としてまとめる方法について学ぶ。その後、インテリアコーディネート提案演習を毎回違う課題を通して、平面図・展開図・パース（またはアイソメ）・家具図面を作図することで習得する。後半では、インテリアプレゼンボードなどを使用した顧客への模擬プレゼン演習を行うことでインテリアの提案手法を学ぶ。	
			建築・インテリア設計演習Ⅴ	小中規模建築空間の自由設計を実践的に行うことで、住宅や建築の設計に必要な基礎知識と、設計製図の技術を習得する。 各自が設計条件に対して想像力を発揮しながら分析して、課題を発見するとともに、それを解決するためには、創造力を駆使して新しい空間構成による作品を提示し、それを美しく表現するスキルを養う演習授業である。完成作品の口頭発表を行うことで、設計図面と言葉によるプレゼンテーション能力の向上も図る。	
			インテリアデザイン演習Ⅰ	インテリアプランナーやインテリアコーディネーター資格に必要な基礎的知識を修得しながら、実践に則した課題によって、提案力、思考力、プレンゼンテーション力を養う。	
			インテリアデザイン演習Ⅱ	インテリアプランナーやインテリアコーディネーター資格に必要な基礎から応用的な知識を修得しながら、さらに、インテリアの動向も踏まえ、実践に則したプランニングのための提案力、思考力、プレンゼンテーション力、発信力、そして、応用力を養う。	
		ライフデザインコース	地域生活学演習Ⅰ	本授業科目では、演習を通して地域社会の活動、社会貢献活動などに関する理解を深めることを目的とする。具体的には、まちづくり、地域の子育て支援、地域の生活力に関する学びの支援などの活動場所を設け、演習活動を行う。活動に際してPDCAサイクルの大切さやコミュニケーション能力の効用を目標とする。	
			地域生活学演習Ⅱ	「地域生活学演習Ⅰ」に引き続き、自治体、学内、ボランティア団体などの組織で活動する。講義や文献などで得た知識や情報、実験・実習・演習で培った技能を基に現場で意見交換を繰り返しながら論理的に任務を遂行する。	
			被服科学	快適な衣生活を送るために、科学の視点で被服を学ぶ科目である。主に、被服材料学（繊維や素材など）と被服整理学（洗濯や染色など）、そして被服衛生学（着心地など）について解説する。衣服を構成する繊維素材の種類や特性、繊維から糸、生地、衣服の製造、衣服の取扱い、染色加工、さらに、着用時の人体へ与える影響について解説する。なお、被服科学の知識を深めるために、被服科学演習と連動して授業を行い、被服科学に関する資料（試料）作りや製品サンプル作りを行う。	
			被服科学演習	「被服科学」で学習した被服素材の特性に関する知識を、実験を通して理解するとともに、観察力や科学的思考力を養うことを目的とする。各種繊維の顕微鏡観察、燃焼性試験などを実施し、それぞれの繊維の特徴を学ぶ。また、織物・糸の構造特性ならびに消費性能の測定、繊維製品の評価の方法を学ぶ。さらに、洗濯洗剤の主成分、界面活性剤の特性を実験を通して確かめ、被服の洗浄メカニズムについて理解を深めるとともに、被服の管理について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	ライフデザインコース	服飾デザイン論（アパレル企画を含む。）	人体と衣服の造形的な結び付きを考察するために、服飾デザインの構成原理や素材・技術・色彩・形態などの基礎的知識の習得を目指す。また、服飾の歴史的背景を学び、ファショントレンドの分析や理解、服装のあり方などを考察する。 季節やトレンド、顧客ターゲットなど、テーマに合わせたファッションコーディネートを企画し、プレゼンテーションを行う際に必要なファッション用語・知識・提案力およびコミュニケーション力を習得することを目標とする。	
			工芸染色実習	私たちはさまざまな繊維製品に囲まれて生活しており、それらは何らかの染色・加工が行われている。本実習では、染色の基礎基本的な知識や歴史を学び、染色技法を実習する。基本技術を応用し、自由作品の制作を行う。	
			フードコーディネート論	食のさまざまな場面において、食事の美味しさや食空間のセッティング、食べる人の心理状態など多岐にわたる条件を調整して、満足のいく場面を演出するフードコーディネートを理解するために授業を行う。食のあり方や消費者ニーズが多様化し、食事の商業化が進む傾向にある一方、日本古来のもてなしの心にも注目が集まっている。これらを理解し、総合的にコーディネートするにはどうしたら良いかを講義や個人／グループワーク、発表などを通して学ぶ。また、「フードスペシャリスト」認定試験を視野に小テストや本試験を行う。	
			食品流通・消費論	近年、食品消費をめぐり「食の外部化」が日本人の日常生活に浸透している。また、フードシステムの川下である食品小売業と飲食産業にも大きな変化が見られている。本授業科目は日本国内における食料の生産・流通・消費に関する知識を学習するとともに、食料品流通システムと消費現状を考察するための視点を身に付けることが目的である。また、「フードスペシャリスト」認定試験対策（食品流通）の問題演習なども適宜行う。	
			食品・調理学実験	「食品学」や「調理学」で得た知識を深めるため、「食品分析に関する基礎実験」「食品成分の分離と変化に関する実験」「衛生に関する実験」「調理の基本操作に関する実験」「身近な食品の調理特性に関する実験」を行う。実験を通して、試薬、器具の取り扱い、数値の扱い方を習得し、食品の特性や調理性を知る。また、レポートの書き方を体得し、実験内容について発表会を行うことによって、それぞれが得た知識や理論、気付きなどの共有を行う。	共同
			食品衛生学	食品衛生学を学ぶ目的は、すべての飲食物を介して起こる健康障害を防ぎ、人の生命と健康を守ることにある。そのため、まず我が国における食品衛生行政のしくみを知り、病原微生物による汚染、有毒有害物質や異物の混入、腐敗変敗から食品を守り食品の取扱い方法について知識を修得する。さらに、食品添加物や食品に関係ある容器・器具・包装などの衛生上の安全性についても学ぶ。	
			社会調査法演習	社会調査は社会生活に関連する事柄について理解するために重要な役割を果たす。そして、現代社会においては、多数の社会調査から得られた結果を精査し、解釈する能力が求められている。本授業科目では、社会調査の意義や結果の解釈の重要性を学んだ後、自らの問題意識や仮説に基づき社会調査を計画・実施し、調査から得られたデータの統計分析を行い、その結果を適切に解釈し、公表するための能力を養うことを目的とする。	
			マーケティング論	本授業科目では、マーケティング理論の初歩のテキストを解説しながら、消費財の企業での業務体験を紹介し、できるだけマーケティングという言葉が身近に感じられる内容を目指す。また、過去の事例を知るだけではなく、「自分の頭で考えてみる」、「自分で商品を手に取ったり、売場に足を運んでみる」、「仲間と話し合ってみる」ことを通じて、自分自身の中にマーケティングする癖をつけてもらえるようにしたい。	
			販売管理論	小売業の業務は清掃・衛生管理業務、レジ業務、補充発注業務といった店舗運営に直接的に関わる業務に加え、人材育成、出店、マーケティング、商品構成など店舗運営に間接的に関わる業務にまで及ぶ。後者の業務の担い手は店長クラス以外にもチェーン店本部の社員も含まれる。本授業科目では、これらの業務を通して「小売業を知る」というテーマで講義を行う。	
			流通管理論	私たちは、ほぼ毎日のように商品を購入し、それを消費することによって生活を営んでいる。これらの商品が生産者から消費者の手元に届くまでにどのような人たちが関与し、それぞれの人がどのような働きを担っているのだろうか。本授業科目では、このようなことについて学ぶ。本授業科目は、流通・商業の概念など、一般的な説明をしたうえで、生産側・消費側の変化や流通（生産と消費と結び付ける活動）の中心をなす卸売業・小売業についてその役割や活動内容を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	ライフデザインコース	パーソナルファイナンス	人生の夢や目標をかなえるために必要な知識（「貯蓄」「投資」「保険」「年金」「税金」「不動産」「相続」など）を幅広く学ぶ。また、個人の総合的資金計画が立案できるよう、上記の知識を基に、問題点の抽出、解決策の検討・提案を行う実践力を身に付ける。学修成果として、ファイナンシャルプランニング技能検定3級に合格することを目指す。	
			リテールマーケティング	販売・経営管理やマーケティングなど流通業・サービス業の管理者としてのノウハウをマスターすることを目的とする。主として、販売、 経営およびマーケティングに関する専門的な知識を身に付け、ある程度の管理業務を遂行し、かつ部下の指導・養成ができるように導く。また、2級リテールマーケティング（販売士）検定合格を目指すが、受験しない場合でも、社会人としての一般的かつ基本的な知識を習得できるような授業内容とする。	
			ファイナンシャルプラン	資産や資金に関する相談者の長期的かつ総合的な視点で、ファイナンシャルプランニングができるようになることを目標とする。相談者の立場やライフスタイル、価値観や経済環境を踏まえながら、家族状況、収入と支出の内容、資産、負債など、あらゆるデータを集めて、現状を分析し、長期的かつ総合的な視点でアドバイスや資産設計などができる能力が身に付くような授業内容である。なお、能力の証として、ファイナンシャルプランニング技能検定2級に合格することも目標とする。	
			調理技術基礎演習	食の自立をし、自炊力を身に付け、健康的な食生活を送りたい学生のための実践的授業。まずは、自分自身の食生活を振り返り、食生活診断、嗜好調査や味覚テストを行う。食に関するさまざまな基本的知識を基に、調理の基礎の基礎を学び修得できるような授業内容とする。簡単な食事や弁当を作ることができるようになる。	
			調理技術発展演習	食の自立をし、自炊力を高め、豊かで楽しみのある食生活を送りたい学生のための実践的授業。まずは、自分自身の食生活を振り返り、食生活診断、嗜好調査や味覚テストを行う。「調理技術基礎演習」で培った知識と技術を基に調理に関する発展的内容を学び修得できるような授業内容とする。簡単な菓子や軽食、イベント行事に注目した料理を作ることができるようになる。	
			プロに学ぶ食育実践演習	北九州市を中心とする近隣地域で活躍するさまざまなプロの方からの講話や実演を通して、食の現場の実際を学ぶことができる。学外での収穫体験や生産および製造現場の見学、テーブルマナーを通して、五感で学ぶ授業内容とする。地産地消をテーマに地元食材に関するレシピ大会を実施し、プロの方を招き発表会と試食を行う。	
	ゼミナール科目		ゼミナールⅠ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、情報収集の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて情報を各自で収集する。収集した情報は、各自で精査・整理・分析を行い、その結果をまとめて発表する。	
			ゼミナールⅡ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、多面的な情報収集の手法の習得、および、要約・分析の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて複数の手法で情報を収集する。収集した情報は、要約・分析を行った後、考察をまとめて発表する。	
			ゼミナールⅢ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。 担当教員が設定したテーマについて分担して情報収集し、グループディスカッションを行うなどして、グループとしての分析結果をまとめる。まとめた分析結果をグループごとに発表する。	
			ゼミナールⅣ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、「ゼミナールⅢ」に引き続き、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。グループディスカッションを通して、テーマ設定、情報の集約、分析、考察を行う。分析結果はパワーポイントにまとめてグループごとに発表する。	
			キャリア発展ゼミナール	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」で習得したことを基に、興味・関心のある分野に関する卒業研究を行う。研究の成果は、研究レポート（卒業論文）としてまとめ、発表を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門教育科目	教育行政学	学校において勤務する教員は、教育の専門的職業人として、公教育がなぜ成立したのか、教育制度がいかなる体系となっているのか、学校は原理的にいかなる使命を負っているのかを知っておかなければならない。また、具体的に学校で勤務するうえで、組織人としてどのような職務行動が求められるのかも知っておく必要がある。さらには、近年強く求められている学校と地域との連携の意義や方法、そして安心・安全な学校とするための危機管理や安全教育の概要についても理解する必要がある。以上を踏まえ、第2～10回では教育制度の理念・思想・歴史・概要などを説明する。第11～14回では学校経営・学級経営の仕組みや効果的方法、学校と地域との連携・協働の意義、学校の安全教育や危機管理のあり方を解説していく。	
	特別支援教育論	障害のある児童生徒などの教育などについて基礎的事項を知るとともに、その背景を通して、特別支援教育の理念、意義、あり方などを理解する。	
	教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	本授業科目は、①カリキュラム構造および編成過程、②効果的授業・学級経営の実践的方法、③情報通信技術の活用の意義と理論、④情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進、⑤児童および生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成する。	
	教育課程論（中等）	教育課程に関する基本的事項や重要項目、さらに、学習指導要領の内容について解説する。 具体的には①教育課程の意義、②教育課程編集の方法および理論や思想、③我が国の教育課程に関する諸法令、④学習指導要領の変遷、⑤中学校・高校学習指導要領総則、⑥総合的な学習の時間、⑦新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントとアクティブラーニングとの関係性および教科等横断の視点に立った教育課程編成の実施や方法、評価とする。	
	家庭科教育法Ⅰ	中学校・高等学校の家庭科教育を実践するために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。具体的には、家庭科教育の歴史的変遷、教育界の動向を反映した学習指導要領に関心を持ち、家庭科教育の方向性を理解する。そのうえで、中学校・高等学校の家庭科教科書を教材として内容・指導法を学び、学習指導案作成、模擬授業を行うための力を培う。	
	家庭科教育法Ⅱ	高等学校においては服飾デザイン科や食物科などの家庭に関する専門学科を有する学校もあり、家庭科教員としてより高度な知識・技能が必要とされる。そのため、「家庭科教育法Ⅰ」で学んだ基礎的知識を基にして専門知識・技能を身に付けることを目指した授業を行う。また、習得した知識・技能を基に、適切に指導するための実践的指導力を養うため学習指導案・評価計画を作成し、模擬授業の実施へとつなぐ。	共同
	家庭科教育法Ⅲ	これまでに学んだ「家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ」の知識を基に、学校現場で授業を実践するための指導力を養う。学習指導要領、教科書の学習内容を理解したうえで、各自治体の様式に応じた学習指導案を作成し、生徒にとってわかりやすく、興味をひくワークシート作成ができる実践力を育成する。また、授業設計における各テーマ（「板書の工夫」「アクティブラーニングの導入」「ICT活用」）の授業設計ができる力を身に付ける。	
	家庭科教育法Ⅳ	「家庭科教育法Ⅰ～Ⅲ」での学びを基に、学習指導要領、教科書の学習内容を押さえつつ、授業実践力の向上を目指す。具体的には、問いかけても答えない、作業を促しても着手しないなど指導困難な生徒への声掛けや支援の方法、また、発問に対して想定外の答えが返った場合の受け答え、深い思考を促す授業展開など、教育実習も含めた学校現場で起こりうる状況に臨機応変に対応できる力を高めていく。	
	道徳教育指導法（中等）	学習指導要領にあるように、道徳教育とは、学校の教育活動のすべてを通じて実施されるものである。本授業科目では第一に、この道徳教育の特殊性についての理解を深める。第二に、道徳教育の要である道徳の時間の重要性を理解するとともに、具体的な指導方法について検討することを行う。その際には、道徳教育に肝要な指導スキルとして、指導案の作成、基本的な指導過程、発問の工夫方法などを伝達していく。	
	特別活動・総合的な学習の時間指導法	特別活動は、各教科など学校全般の教育活動全体と深く関わっている。学習指導要領を踏まえ、集団の一員としての見方考え方を働かせ、「生活づくり」「人間関係づくり」「自主的実践的な態度」「自己の生き方」など、これからの社会を担う児童生徒の資質能力を培うことを目指す。本授業科目では学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事を取り上げながら、模擬授業を行う。また総合的な学習の時間も特別活動と同様に教科書はなく実生活や実社会における問題解決をする学習である。事例や実践を基にアクティブラーニングを通して、知識・技能、表現力、人間関係力の資質能力を培う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する専門教育科目		生徒・進路指導（中等）	本授業科目では、生徒指導および進路指導の理念や意義を理解し、生徒・進路指導上の問題行動や事例を基に生徒指導および進路指導のあり方について理解する。さらに、生徒指導の問題が起きたときの対応能力だけでなく、未然に防ぐための積極的な自己指導能力を身に付ける。そのために児童生徒の学校生活を豊かに充実させる学級経営や教師の役割について学ぶ。	
		生徒・教育相談論（中等）	教職科目として、教育相談の基本的考え方、意義、援助の方法について理解することを目的としている。本授業科目では、教員が学校現場での教育相談の実務経験に基づきながら講義を行い、不登校、いじめ問題、発達上困難を抱えて支援が必要なケースなど近年の教育相談の動向についても取り入れる。学生には、背景としてカウンセリング理論を理解し、連携のあり方など教育効果を高める具体的な相談援助方法を教授する。	
		中等教育実習事前事後指導	教育実習に備えるための事前指導および振り返りの事後指導を行う。事前指導においては、これまで教職関連科目で学んできたことを踏まえて、教育実習の意義と手順および注意すべき事項、教育職員の職務とその特殊性、服務内容、生徒指導、特別支援教育、人権教育について確認し、教科の授業研究について指導する。事後指導においては、実習校での体験を振り返り、教科の授業（査定授業）および教育実習全体についての自己評価と反省、考察を行う。	共同
		中等教育実習Ⅰ	「中等教育実習事前事後指導」の事前指導を修了した学生が、教職に必要な実践力を身に付けることを目的として教育実習を行う。実習期間は原則として5月～11月の間で、中学校3週間以上、高等学校2週間以上の実習を行う。実習は教職課程の最終仕上げに位置付けられるので、これまで学習してきた理論を実践に結び付けるために、教科教育面はもちろんのこと、学校教育のあらゆる場面における教育を体験し、柔軟に学ぶ姿勢で臨むことが求められる。	共同
		中等教育実習Ⅱ	「中等教育実習事前事後指導」の事前指導を修了した学生が、教職に必要な実践力を身に付けることを目的として教育実習を行う。実習期間は原則として5月～11月の間で、中学校3週間以上、高等学校2週間以上の実習を行う。実習は教職課程の最終仕上げに位置付けられるので、これまで学習してきた理論を実践に結び付けるために、教科教育面はもちろんのこと、学校教育のあらゆる場面における教育を体験し、柔軟に学ぶ姿勢で臨むことが求められる。	共同
		教職実践演習（中等）	本授業科目では、各自が、調査研究を行ったり、班での討論や全体の場での発表などをすることによって、中等教育学校の教師として必要な知識・技能や問題解決能力の習得のための学習と演習を行う。	共同
自由選択科目	図書館司書課程科目	図書館概論	図書館の学習全般にわたり最も基本的な知識、原理を学ぶ。特に社会における図書館の意義、役割や機能について理解する。また、図書館の歴史や現状を把握し、今後の図書館のあり方についても考える。さらに図書館経営や組織などの見識も深め、図書館関係団体など図書館を取り巻く環境についても学び、ネットワーク時代の図書館の将来展望について応用できる知識形成の基を築く授業とする。	
		生涯学習概論	図書館は生涯学習施設であり、司書は人々の生涯学習を支援する仕事であるとも言えることから、生涯学習についての基本的な理解を図る授業である。生きることはさまざまな課題を解決していく過程であり、課題解決の一つの方法が学習である。よりよく生きるためには生涯にわたる学習が重要であるという生涯学習の理念および時代背景を確認したうえで、生涯学習社会形成のために必要な視点を説明する。具体的には、社会教育と学校教育および家庭教育の各役割と関係、人生各期の学習、学習支援の方法、施設の役割などについて講義する。	
		情報資源組織論	資料組織の意義・目的と方法について理解を深め、図書館資料の組織化について基礎的な知識を身に付ける。（1）資料組織化の歴史と現状を理解する。（2）組織化のツールとしての日本目録規則（NCR）と日本十進分類法（NDC）の意義を理解する。（3）資料組織化に関する基礎的な用語を理解する。	
		情報資源組織演習Ⅰ	本授業科目では、図書館における情報資源組織化を理解するための演習を行う。そのため、基礎知識となる「情報資源組織論」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、利用者が図書館の所蔵する資料を分野から検索できる主題目録（①分類目録、②件名目録）を作成する。①分類目録：情報資源を配列するための分類法（『日本十進分類法（NDC）』新訂9版 本表編、相関索引・一般補助表編）の知識を身に付ける。②件名目録：情報資源を主題形式の言葉順に配列するための件名標目表（『基本件名標目表：BSH』第4版）の知識を身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	図書館司書課程科目	情報資源組織演習Ⅱ	本授業科目では、図書館における情報資源組織化を理解するための演習を行う。そのため、基礎知識となる「情報資源組織論」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、情報資源の組織化を行うために『日本目録規則（NCR）』1987年版改訂3版を使い、カード目録やコンピュータ目録を作成し、「資料組織法」、「目録記入」等目録（書誌データ）作成についての基本を学ぶ。また目録作成にあたり、紙媒体の情報資源だけではなく、インターネット上の多種多様な情報資源も対象として演習を行い、利用者への提供の意義を学ぶ。	
		情報サービス論	現代社会における情報ニーズに対応し、将来の発展を見据える能力を養成する。また、情報サービスに関する現象や事実に通じる原理を理解する。本授業は理論的な知識だけではなく、「情報サービス演習」につなげる実践（実務）的な技術についても理解を深め、専門職としての技能（キャリア）形成を行う。また、授業内においてグループディスカッションを取り入れ、他者からの情報収集・分析・発信ができるような形式を取り込み基礎力の養成を行う。	
		情報サービス演習Ⅰ	本授業科目は、「情報サービス論」で学習した基礎知識を基に応用能力を養成する。そのため、受講希望者は、「情報サービス論」の単位取得および取得中の者に限る。授業概要は、情報資源をいかに利用者へ提供するかを考えるとともに情報ツールを把握する。また、情報ツールを使うことにより、利用者のニーズにあった情報を提供するとともにサービスに必須のコミュニケーション能力を演習を行いながら養う。そのほか授業内において学外の組織などと連携して課題解決が主体的にできるようにする。	
		情報サービス演習Ⅱ	本授業科目は、「情報サービス論」で学習した基礎知識を基に応用能力を養成する。そのため、受講希望者は、「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、「情報サービス演習Ⅰ」の演習で身に付けた知識とスキルを活用させ、スキルアップできる演習を行う。また、「情報サービス演習Ⅱ」では、図書館外の企業などでも用いられる情報分析（フレームワーク）を行い、情報収集・発信・提供・維持管理などの知識とスキルを身に付ける。	
		児童サービス論	本授業科目は、子どもを知り、子どもの本を知り両者を結ぶ技術を知ることができるようにする。学生は子どもの読書の大切さを体得することが重要である。そのために読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークなどを実践して読書の楽しさを伝える手法を学ぶ。また、図書館を使った課題解決のためのレファレンスサービスの体験や本の良さを伝えるための書評の書き方を学ぶ。これらを通して子どもと本をつなぐ図書館司書になる基礎を培っていく。	
		図書館情報技術論	情報化社会となっている今日の図書館における業務やサービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接な関係をもっている。これからの図書館司書には、情報技術に対する知識や技術の向上が求められるようになる。本講義では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するために、コンピュータとネットワークの基礎、図書館業務システム、データベース、電子資料などについて理解する。	
		図書館情報資源概論	図書館における情報資源とはどのようなものか、資料形態（情報）ごとに定義、歴史、意義、特質の基本知識を習得する。そのうえで情報資源に関連する出版流通や著作権、図書館の自由などの現状と動向についての知識を深める。また、図書館情報資源の構築は図書館運営に関わるため、本授業を通して実際の情報資源をみて、情報資源を判断できる実践的見識と能力を養成する。	
		図書館サービス概論	図書館にはさまざまなサービスがある。「図書館と利用者」、「図書館職員と利用者」、「図書館と図書館」、「図書館と行政等」、その一つ一つのサービスのあり方や機能を学ぶことにより、図書館サービスの社会的役割を理解する。また、地域のコミュニティとしての文化的・教育的役割についても理解し、職業人（司書）としての意識を高める。	
		図書館制度・経営論	図書館に関する法律、関連する領域の諸法令、図書館政策について理解を深める。さらに図書館経営の考え方、職員や施設などの経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態などとともに図書館施設について学ぶ。	
		図書館サービス特論・図書館情報資源特論	本授業科目では、図書館サービスにおける利用者と図書館の間のコミュニケーションの学びを活用する。次に、近年図書館が取り組んでいる課題解決サービスについて学んだ内容を応用して図書館サービスのあり方を考える。さらに、各分野の情報資源の概念や特性などを踏まえたうえで、文献や情報の特徴や種類を活用する方法を理解する。また、昨今の図書館に求められる多様なニーズについて、最新の情報を使いより学びの理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	図書館司書課程科目	図書及び図書館史・図書館基礎特論	図書と図書館に関わる諸現象を各時代の社会体制や文化の発達過程の中で考察し、現在に至った図書館の歴史を理解する。そのうえでこれからの図書館や司書のあるべき姿を考える。図書館について4年間学んだことを横断的に振り返り、人の役に立つ司書になれるような考え方とスキルを身に付け、書いて話せる図書館員になれるように実践を通して学ぶ。 これらを通してデジタル化などの急速な社会の変化に臨機応変に対応できる考え方とスキルを身に付け生きる力を高めていく。	
	学校図書館司書教諭課程科目	学校経営と学校図書館	学校図書館の教育的意義や経営など、学校教育における学校図書館の果たす役割を明確にし、学校図書館全般について理解する。学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務を明確にし、担うべき役割について理解する。本授業科目は、司書教諭科目全体の総括的内容となっている。	
		学校図書館メディアの構成	学校図書館で扱うメディアは、情報社会の進展とともに､図書や雑誌などの伝統的メディアから電子メディアまで多岐に渡る。学校現場ではメディアを校内活動に積極的に取り入れ、子どもたちがメディアを利活用することが望まれている。本授業科目では、学校図書館の役割を認識し、学校図書館で揃えるべきメディアの種類や特性、その組織化について学ぶ。	
		情報メディアの活用	現代社会が情報化・高度化するにつれて、多種多様なメディアが出現している中、司書教諭と生徒双方に求められるのは情報活用能力である。特に、学校図書館の指導に携わる司書教諭は、授業内容に関連した資料や情報を利用するための知識と方法を身に付けておく必要がある。授業では、多様な情報メディアの特性や活用法について学ぶ。	
		学習指導と学校図書館	変化の激しい現代社会において、情報活用能力を培うことが求められている。学校図書館は、学習・情報センターとしての機能を有し、教科・領域などと連携協働して、児童・生徒の学習指導の展開や学習活動を支える役割を持っている。学習指導における学校図書館の機能と司書教諭の役割は何かについて理解する。図書館を活用し、自ら探究型学習を行うことで、児童・生徒の情報活用能力の育成方法について学ぶ。	
		読書と豊かな人間性	生涯学習社会といわれる今日において、子どもの生涯にわたる読書習慣を形成するためには、早期の読書教育が必要である。子どもの読書実態を踏まえた読書指導について、司書教諭の役割を理解する。子どもと本を結び付け、読書習慣を形成するためのさまざまな方法や技能について、演習しながら学ぶ。	
	K―CIP科目	公務員試験概論	公務員採用試験対策の準備段階として、公務員の職種紹介を行い、志望職種を選択するために必要な情報提供を行う。また、試験制度や受験科目の説明を行い、今後の学習の指針を示す。さらに、数的処理といった公務員試験特有の科目紹介、身の回りのニュースなどを題材にした社会科学分野の学習などを通じて、今後の学習の準備を行う。この講義を通じて、公務員試験について理解し、今後の学習計画が立案できることを目指す。	
		数的処理Ⅰ	公務員採用試験での判断推理、数的推理、資料解釈といった科目や、民間企業採用試験で実施されるSPI3試験の非言語分野の問題で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では特に基礎的な内容を重視し、多くの問題に触れながら解法のポイントを紹介し、課題を論理的に解決する方法を学ぶ。また、問題解決で必要になる数学に関する知識に関しても中学校、高等学校の復習を行い、基礎的な数学力を身に付ける。	
		社会科学Ⅰ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。この講義では社会科学の中でも特に経済分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目のミクロ経済学や経済史、金融政策などの基礎的な内容まで学習する。本授業科目を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、専門科目の学習をスムーズに始めることができる。	
		文章理解	公務員採用試験での「文章理解」や民間企業採用試験で実施されるSPI3試験などで課せられる長文読解を中心に講義を行う。文章読解能力は採用試験で必要となるだけでなく、日常的なコミュニケーションやあらゆる科目の学習の基礎となる能力であり、社会で活躍する人材になるうえで必要不可欠な能力である。本授業科目ではより多くの文章に触れながら自ら文章を読み、自ら考えることを重視し、読解能力の向上を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	数的処理Ⅱ	公務員採用試験での判断推理、数的推理、資料解釈といった科目や、民間企業採用試験で実施されるSPI3試験で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では「数的処理Ⅰ」で学習した内容を基に、さらに多くの問題に触れながら応用問題、発展問題の解法について学習を行う。また、「数的処理Ⅰ」では学習しなかった問題についても学習し、数的処理能力を向上させ、より多くの課題を解決できる力を身に付ける。	
		数的処理Ⅲ	公務員採用試験での判断推理、数的推理などの科目で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では「数的処理Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容を基に、実際の公務員採用試験の問題にも触れながら問題の解法について学習を行う。また、「数的処理Ⅰ・Ⅱ」では学習しなかったパターンの問題の解法などについても学習し、採用試験に向けてより実戦的な力を身に付け得点力の向上、課題解決能力の向上を目指す。	
		社会科学Ⅱ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。本授業科目では社会科学分野の中でも特に政治・法律分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目の憲法や政治学などの基礎的な内容まで学習する。この講義を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、憲法などの専門科目の学習をスムーズに始めることができる。	
		人文科学	公務員採用試験で出題される人文科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。本授業科目で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	
		自然科学	公務員採用試験で出題される自然科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。本授業科目で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	
		憲法演習	公務員採用試験で出題される憲法について学習する。憲法は全ての法律の拠り所となる存在で、数多くの法律の中でも重要な役割を担っている。総論、人権、統治機構が主な内容であり、本授業科目では、これらの内容について条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		行政法演習	公務員採用試験で出題される行政法について学習する。公務員として働くうえで行政に関する法律の知識は必須である。本授業科目では、地方自治法や行政手続法、国家賠償法などの行政法について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		民法（総則、物権）演習	公務員採用試験で出題される民法について学習する。民法は身近な法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。本授業科目では、民法の中でも総則、物権の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		民法（債権、親族・相続）演習	公務員採用試験で出題される民法について、既に学習した民法（総則、物権）演習に引き続き民法の重要論点について学習する。本授業科目では、民法の中でも債権、親族・相続の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	ミクロ経済学演習	公務員採用試験で出題されるミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学では消費者や企業の行動に着目し学習を進める。また、微分などの数学的な知識が必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。本授業科目では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		マクロ経済学演習	公務員採用試験で出題されるマクロ経済学について学習する。マクロ経済学では国家や市場に着目し学習を進める。また、微分などの数学的な知識が必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。本授業科目では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		法律科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される法律科目について、憲法、民法、行政法の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、刑法や労働法といった、その他の法律科目の内容についても、条文やの理解や重要な判例の学習を行う。特に刑法については理論やその学説、労働法については労働基準法など社会人として知っておきたい知識などについて学習を行う。	
		法律科目演習Ⅱ	「法律科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される法律科目（憲法、行政法、民法、刑法、労働法など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		経済科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される経済科目について、ミクロ経済学、マクロ経済学の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、この講義では財政学や経済事情といった、その他の経済科目の内容についても講義を行う。財政学では財政理論や財政制度などについて、経済事情については国や地方自治体の一般会計などのデータについて学習を行う。	
		経済科目演習Ⅱ	「経済科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される経済科目（ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、経済事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		行政科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される行政科目について、政治学、行政学、国際関係などの多岐にわたる科目の学習を行う。政治学では政治制度や政治思想、行政学では官僚制度や行政理論、国際関係では国際情勢や外交史などについて学習し、いずれも行政職として働くうえで基礎となる知識になる。これらの科目の学習を通じて、単に採用試験に合格するための知識としてだけではなく、行政職として活躍できる人材育成の土台作りを行う。	
		行政科目演習Ⅱ	「行政科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される行政科目（政治学、行政学、国際関係、社会科学、社会事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		会計学演習	公務員採用試験で出題される会計学について学習を行う。公務員採用試験において会計学は国税専門官の採用試験で出題される科目で、その出題数も多い。簿記に関する内容を多く含むので、受講前に日本商工会議所主催の簿記検定2級まで学習を終えていると内容を理解しやすい。本授業科目では公務員試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	専門科目記述式演習	国税専門官、裁判所職員などの採用試験で実施される記述試験の対策を行う。国税専門官では憲法、民法、経済学、会計学、社会学の5科目から選択、裁判所事務官では憲法が出題されるが、本授業科目では法律と経済学の対策を主に行う。自由記述式の試験であり、より深い知識が必要となるため、ある程度学習が進んでいる学生を対象とする。過去の出題例を基に重要論点について自分の言葉で論述できるように、実践的な演習を行う。	共同
		公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	公務員採用試験で出題される教養科目の知能分野（文章理解、数的処理）、知識分野（社会科学、人文科学、自然科学）の問題演習を行う。本授業科目では基本事項、重要事項の確認を行いながら、より発展的な問題も出題し応用力、実戦力を育成する。また、模擬試験形式で問題演習を行い、速く正確に問題を解くことを講義内で訓練し得点力の向上を目指す。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
		文章理解演習	既に学習した文章理解の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される現代文や英文の内容把握を中心とした長文読解の学習を行う。講義内で重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても取り扱う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		人文科学演習	既に学習した人文科学の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される日本史、世界史、地理、文学・芸術などの人文科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	「公務員試験直前対策Ⅰ（教養）」に引き続き、公務員採用試験で出題される教養科目に関して模擬試験形式で問題演習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		社会科学演習	既に学習した「社会科学Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、公務員採用試験で出題される法律、政治、経済などの社会科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		自然科学演習	既に学習した「自然科学」に引き続き、公務員採用試験で出題される数学、物理、化学、生物、地学などの自然科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）	一部の公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの従来の公務員採用試験とは異なる試験形式の対策を行う。これらの試験は従来の公務員採用試験よりは難易度が低いが、時事問題なども含まれるため、幅広い知識が必要となる。また、出題数が多いことから平易な問題を素早く解く訓練も必要となるため、それらを意識した講義を行う。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
		公務員試験直前対策Ⅱ（SPI）	「公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）」に引き続き、公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの試験形式の対策を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	公務員試験直前対策Ⅲ（教養）	既に学習した「公務員試験直前対策Ⅰ・Ⅱ（教養）」に引き続き、模擬試験を中心とした講義を行う。その中で時間配分や問題の取捨選択など、筆記試験合格に向けて、より実践的な練習を行う。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員試験直前対策Ⅲ（SPI）	既に学習した「公務員試験直前対策Ⅰ・Ⅱ（SPI）」に引き続き、問題演習を中心とした講義を行う。その中で早く正確に解くための訓練を行い、一次試験合格に向けて得点力を向上させる。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員人物試験対策	公務員採用試験の人物試験対策を行う。本授業科目では特に、面接試験の準備を重視し、エントリーシートの作成や、個別面接、集団面接のロールプレイングを行い、面接試験に向けた対策をを行う。また、論作文試験についても解説講義を行ったうえで論作文の添削を行う。さらに、一部の自治体では集団討論やグループワークが実施されるため、実際にグループに分かれて体験することで実戦力を身に付け、人物試験合格を目指す。	
	留学生特別科目	初級日本語ⅠA	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話力を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書の他に生の会話や文化的なものを教材として活用する。	
		初級日本語ⅡA	文の構造と意味・機能の総合的理解を目標に、新しい文型を導入し、状況に応じて運用できるようになる練習をする。文法とともに会話力を磨く。	
		初級日本語ⅠB	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話力を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書の他に、生の会話や文化的なものを教材として活用する。	
		初級日本語ⅡB	さまざまな日常生活の場面で自然な日本語を運用して、日本語能力試験N3レベルの語彙と文法項目を学習する。文法を駆使して、発音、文章を書く練習を行う。	
		初級日本語ⅠC	課題遂行型（タスク型）の教科書を使って、（1）音声を聞く（2）話す活動をする（3）振り返る、のステップを繰り返すことで、CEFR-A1～A2レベルの日本語力を身に付けることを目指す。また、聴解音声を使って、ある程度まとまったテキスト（CEFR-A1～A2レベル）のインプットを理解することを目指す。	
		初級日本語ⅡC	課題遂行型（タスク型）の教科書を使って、（1）音声を聞く（2）話す活動をする（3）振り返る、のステップを繰り返すことで、CEFR-A2レベルの日本語力を身に付けることを目指す。また、聴解音声を使って、ある程度まとまったテキスト（CEFR-A2レベル）のインプットを理解することを目指す。	
		初級日本語ⅠD	本授業科目は発音からスタートする初心者向けの入門コースである。メイン教科書の内容に従って、「基礎発音、単語、文型」という流れに沿いながら基本文型の繰り返し練習と学生の発話訓練に重点を置く。日本語の基礎文法をしっかり身に付け、日常生活に必要なコミュニケーション能力を育てる。	
		初級日本語ⅡD	初級用テキストで学んだ表現を使って出来事や状況を説明したり質問に答えたりする練習をする。パワーポイントを使って住んでいる町や家族を紹介する練習も行う。	
		初級日本語ⅠE	本授業科目は聴力をメインとする初級者向けの聴解訓練コースである。教科書『日本語聴力第三版学生用書入門編』（中国華東師範大学出版社）の内容に沿い、重要単語や基本文型を繰り返して聴く練習や要点説明を通して日本語を「聞く」力を育成する。また、授業の進度に合わせ、『みんなの日本語初級Ⅰ聴解タスク25』を利用して聴解練習も行い、文脈分析、既知知識を使った予測または推測能力を養成する。	
		初級日本語ⅡE	初級レベルの文型や語句を使った会話アナウンス、スピーチなどが正しく聞き取れることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学生特別科目	日本語講座Ⅰ	『日本語1級能力試験対策』および模擬試験問題集を教材とし、日本語の表現、文法、語彙の意味用法、読解力を養成する。また、言葉の勉強と同時に日本社会・文化に対する理解も深めていく。	
	日本語講座Ⅱ	「日本語講座Ⅰ」の準1級レベルの続きとして、後期は文字、語彙、文型、読解を中心に、『日本語1級能力試験対策』および日本語表現文型を教材とする。日本の社会、文化についての理解を深めさせるような講義内容を心掛ける。	
	日本事情Ⅰ	現代日本のアニメーション・マンガ作品などを教材の中心としながら、それらの作品に込められている作者のメッセージやその魅力を読み取る。この授業は、担当教員からの解説だけではなく、授業で取り上げた作品について受講生の日本語による発表も毎回行う。	
	日本事情Ⅱ	現代の日本を知るために、現在日本でヒットしているアニメ作品、マンガ作品、映画、ドラマなどを材料としながら、俯瞰していく。それらの作品の魅力やメッセージを読み取ることがすなわち、現在の日本を知ることになると考えるからである。	
	比較文化Ⅰ	言語、文化、コミュニケーションについての基本概念を説明する。次に、中国の文化と日本の文化を例に比較する。比較の観点は、日本と中国で異なると思われるものを見つけ出して比較するだけではなく、共通性の観点からも比較の作業を行う。他国の文化および自国の文化を正しく理解できるように講義を進める。授業の進め方は、講義形式とゼミ形式を併用する。授業を通して、コミュニケーションおよびプレゼンテーションのスキルアップも図る。	
	比較文化Ⅱ	「比較文化Ⅰ」で学んだ理論的な内容を実際に応用してもらう。ヒト・人類の政治的社会的文化的な行動・価値観・規範のそれぞれ異なる顕れと見なして具体相を知り、そのことを通して多文化共生社会を構築できることを目指す。まず、多文化社会におけるコミュニケーションのスキルについて説明する。次に、異なる文化的背景の人とコミュニケーションが取れるように、多種多様な文化を比較しながらその共通性の観点からも考えを深める。授業の進め方は、講義形式とゼミ形式を併用する。授業を通して、コミュニケーションおよびプレゼンテーションのスキルアップも図る。	